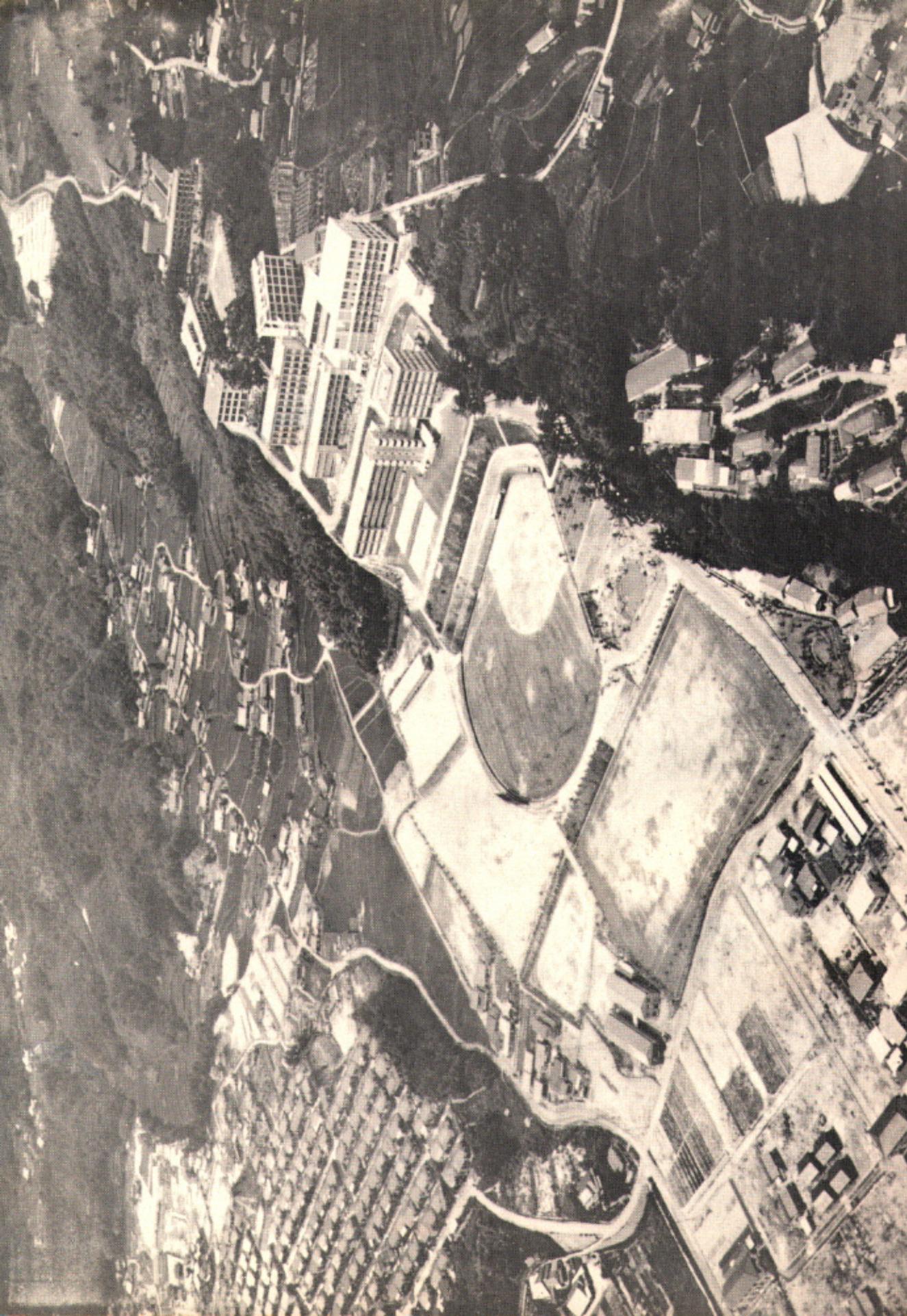


広島工業大学

# 同志会誌

第3号  
昭和44年



## 一 目 次

## 提 言

はなむけのことば	
土木工学科教授教務部長	
桜井 季男 ..... 1	
第1回生を送るに当って	
建築学科教授	
曾根田 彰 ..... 2	
これから社会に出る諸君へ	
電子工学科教授	
鈴木 重夫 ..... 4	
人間の幸福	
電気工学科教授	
木村 三郎 ..... 5	
同窓会員の皆さんへ	
機械工学科講師	
中井 利三郎 ..... 6	
師弟の心	
一般教養教授	
大槻 正一 ..... 7	

## 会員便り

「入社一年目」	
S42. 電子工学科卒	
島田 裕 ..... 8	
青春という旅	
電子工学科	
波田野 秀明 ..... 10	
「卒業の抱負」	
電子工学科	
竹中 典彦 ..... 11	
卒業するにあたり考える事	
S43. 電気工学科卒	
坂上 定夫 ..... 12	
雑感	
S43. 電気工学科卒	
打田 博之 ..... 13	
卒業にあたって	
S43. 機械工学科卒	
国田 晃司 ..... 14	
余計者の良心	
S43. 土木工学科卒	
古谷 秀次郎 ..... 15	
アホンダラ人生	
S43. 建築学科卒	
竹内 明司 ..... 16	
サラリーマン一年生の考えたこと	
S42. 機械工学科卒	
横山 隆雄 ..... 20	
我が職場	
国鉄の現状と未来像	
S41. 電子工学科卒	
中原 重男 ..... 28	

## 準会員便り

自治会長	
今井 正明 ..... 17	
クラブ紹介	
体 育 局	バレー部
ラグビー部	ボート部
サッカー部 } ..... 18	柔道部 } ..... 19

## 学園便り

・母校の人々	
ハンドボール部	
井口 友常 ..... 21	
電気工学科	
永井 成子 ..... 21	
(旧姓 吉村)	
・研究室訪問<その2>	
「私達の研究室」	
機械工学科 助教授	
斎藤 徳行 ..... 22	
・学園現況(写真紹介)	24
・就職状況	
就職委員会事務室長	
蒲池 玄三郎 ..... 26	

## 同窓会便り

議事録	80
会計報告	80
編集後記	31
計報	31

広告	
藤田組 } ..... 32	ジツダ
新川電機	第一産業 } ..... 33
	石田酒店

## 規約

会則	34
会員名簿	36
役員名簿	57
教職名簿	57

## 広告

筒井測器	62
あづま寿司	62
理研産業株式会社	63
高野電気商会	63
広島プリント社	64
溝本横濱書店	64
新光商事株式会社	64
日本電子株式会社	65
丸島サイエンス	裏表紙裏
広島相互銀行	表紙裏

# 提



## はなむけのことば

土木工学科教授 桜井季男  
教務部長

電子工学科・電気工学科各4回生、機械工学科2回生及び土木工学科・建築学科各1回生の諸君は、この度目出たく広工大をご卒業なされ、同窓会の新会員となられましたことは、まことにご同慶に存じます。

かって、この国は、国土狭小・人口過多・資源欠乏のために、国の発展策として植民地獲得の必要から、數度におよぶ戦争を行ない、ついにその戦いに敗れ、国土は半減し、人口は増加し、資源は極減したにもかかわらず、20余年の間に工業的にすばらしい繁栄をすることになったのは何が原因か。私が特に答えたいことは、上記3原因のために反って繁栄しているのである。

すなわち海軍が持っていた優秀な造船技術のために世界一の造船能力を発揮し、大きな船を安く造って、それによって海上輸送を行なうことは、小さな船で運ぶ場合や陸上輸送費に比べて大変に安く、さらに、外国資源を満載した大きな船を岩壁に横付け荷揚げして、その場において加工することは著しく経済的である。そしてその加工品を岩壁から海外へ大きな船で輸出する。この方法は世界に敵なしである。この国が戦後工業的発展をなしとげたゆえんである。もっとも、勤勉にして協力的な国民性に負うところが多いであろう。

さらに発展するためには、工業用水が必要であり、海に面した水の多い所に新産業都市を計画され実施されているが、将来そのような水を海水から安価に取る技術が完成されることは明らかである。そのとき、海岸線の長いこの国で

は、無限に長い岸壁の可能性を想像するとき、この国の工業産業の発展は地球上において、まことに前途洋々たるものがあると考えられる。それらの工業技術を担当すべき新卒業生の前途は絶大な希望に満ちたものであり、すばらしい生き甲斐があると思う。

サラリーマン年功序列の慣行は、これから実力主義の時代に移行されるでしょう。学校教育においては専ら学業成績のみが高く評価されて、それによって受講制限も適用される。しかし実社会では、人格の総合力で評価されることになる。その総合力の中で占める学業成績は一小部分に過ぎない。その外に体力・人物・根性・持久力・創造力・精神力・忍耐力・考察力・積極性・社交性・適応性・対人性などの多くの能力性格の総合したもので評価されることになる。これらの諸性能の中にはおのの短所もあるが、誇るべき長所を持っている。その優劣が方程式を解くように、判然とするものではない。自分の総合力に大きな自信をもって、ものごとに対処してほしい。

最後に新会員に対するはなむけのことばとして、私のサラリーマン6原則を述べておきたい。

(1)仕事に対する意欲を持てば、努力が苦痛でなくなること。

(2)勉強することによって、自分の職務についての知識を養成すること。

(3)なきねばならない仕事は、早く正確に、しかも最後まで完全になしとげること。

(4)創造力を發揮し、創意工夫して新技术の開発に貢献すること。

# 言

(5)何事も一人でできるものではない。協調性や対人関係を軽視しないこと。

(6)健康に注意し、レジャーを合理的に利用すること。

バランスのとれた生活をするもの、それとのとれない生活を楽しむもの、水が高きから低きに

流れるように無理をしないもの、低い水を高い所へポンプアップするように進んで無理をするものなど、いろいろな生活様式があるでしょう。わが道を胸を張りながら男々しく前進し、まさにテンポの速い現代において、反省し悔いのない生活を歩み出してください。（教授・工博）

## 第1回生を送るに当つて

建築学科教授 曾根田 彰



今年建築学科の第1回生として卒業される諸君に先づお祝いの言葉を申上げると共に、4年間の御努力に対して敬意を表する次第である。施設の不備や教授陣の手不足という悪環境の中でバイオニア的な犠牲を忍びながら卒業という閨門にたどりつくまでには既に多くの落伍者を出している。しかしそれだけに今日の栄冠を勝ち得られた諸君は、それだけに試練に打ち負かされることなく人生の第1段階を先づ登り得たことに自信を持つべきである。

次の段階はこれから就職して実社会に踏み出すことであって、もう一度より激しい試練にさらされる訳であるが、本学の建築学科のレツタルが第1回生の社会的な評価によって先づきめられることを自覚して頑張って貰いたいと思う。

所で諸君が子供の頃を思い出して見ると、その頃の夢は空想の翼に乗って無限の拡がりを羽ばたいていたに違ひない。その夢が進学と共に

次第に現実的になり「建築家」という限定された範囲に縮められたのであろうが、今まで就職を決めるに当つてより一層狭い分野に限定せざるを得なくなったことに或る種の幻滅に似た感慨を懷いた者もあった事と思う。学校では一応建築学の全般について学び随つて諸君は、将来社会に出てあらゆる方面に手広い活躍が出来ることを漠然と期待していたに違いない。しかし社会に出るという事は社会の機構のいづれかの職能を分担することであり、当然に限定された守備範囲を定めなければならない事になる。そして自分の選んだ分野についての本当の勉強はこれから始まるのであるが、自分の守備範囲に関しては誰にも文句を云わせないだけのエキスパートになろうと努力して見ると、狭いと思ったその世界が実に無限の広がりを持っている事に思い当る筈である。

例えばプロ野球に入って先づ外野手をやらせ

られてつまらないと愚痴をこぼす者がいたとしたら、恐らく彼は立派な選手になる資格はないと考えてよいと思う。先づ与えられた持場であらゆる努力をして一流の外野手として認められればその選手の前途は洋々たるものであって、いろいろの可能性が開けて来るに違いない。人の一生はどんなにも変るものなので、その人の努力とチャンスの合成功力の様なものと云えようが、ともかく今踏み出した自分の職能が一見して間口が狭いからといってこのままの形で長いトンネルの様な一生が決められた様に考えるのは早計であると云わねばならない。

次に学窓と社会の断層が想像以上に大きいことにも驚くことであろう。学問の世界は一般に様々な煩雑な附帯条件を一応切り捨てて、純粹な形の幾つかの与件を基にした理論の追究であり、教わることもそうした形を多くは出でていな。工学部門は理学部よりは現実的な要素を加味しているとは云うものの、自然科学的なものと原則的な経済性を考慮した程度であって、実社会の仕事は微妙な所まで経済の論理が独裁しており、その他的人文的要素が複雑に関わり合って來るので、学校で習った通りにやれば良いという説に行かない事が多い。言葉をかえて云えば *sein* (現実にある形) と *sollen* (あるべき形) の間に挟まれて身を処するに苦しむ事が多いが、*sollen* に背いて妥協し

なければならぬ場合でも、その時は心なすもの妥協であることを我が身に云い聞かせた上で行動すべきであろう。唯安易について流れる道を採んで身心を没入して聊かも苦惱を感じない人もいるが、こうした人は歴史の進展に寄与することの少い人であると私は考えている。

最後に卒業生諸君に端的に忠告したい事は、社会に第1歩を踏み出して見て、どうやら自分は道を誤ったのではあるまいかという様な疑惑を感じ始めたとしても、とにかく3年間の幸抱をして貰いたいという事である。それは3年位やつて見なければその仕事の本当の意義は判るものではないし、また一つにはそれが如何なる理由があったにしろ自分が熟慮して決めた事に対する男の責任というものであろう。軽々しく気の變る人間は世間が次第に信用しなくなるからである。3年間を精一杯の努力して見てなお自分に何かないと思うか或は社会状勢の変化などで大きく見込みが違つて來たのなら、その時始めて転身を考えるべきであろう。その場合でもこの3年間が決して無駄でなかった事を悟るに違いない。殊にその間に、より苦しみ、より努力したのであればある程、この最初の3年間の経験は今後の一生にとって誠に実りの多い諸君の歴史の1コマとなるであろう事を固く信じて疑わない。



# これから社会に出る諸君へ

電子工学科教授 鈴木重夫



目出度く4年の勉学を終え、社会に出る諸君お目出度う。恐らく、諸君は新しい社会における人生のスタートを前に胸をふくらませていることと思う。然し、一面、実社会というものがどんなものかという一抹の不安も感じているのではないかと思う。

私は少くも諸君よりは一般社会についての経験をしている。たしかに大学の学生という社会とは違った点があることを思い知らされたこともある。

そこで、諸君の参考のためにその相異点を記してみよう。

先ず、初めて社会に出た1年間位は私の場合には大へん大切にされた。これは、まだ一般の社会を知らないいわば見習の幹部候補生という見方からである。然し、これは少し分別のある人ならすぐ判断できる。これに甘えてはいけないということに気がつく筈である。

1年位経過すると、そろそろまわりのことがわかってくる。私だけの判断だけではないが、人間にはこんなに大きな能力の差があるのかと、いうことに気がつく、高校、大学では成績の差こそあっても、これはうめ難い程の巾ではない。万一の場合には一年多く勉強すれば追いつき得ると考えられる程の差である。ところが、社会における人の能力の差は一生かかつてもうめられないと思う程の差がある。

「それに比べて自分は1年も経過しているのに大学時代と殆ど差がない」と考えてノイローゼになる人もいる。然し、この差に気のついた人は実は望みのある人である。

次に、何年か経過して、ある程度の仕事ができるようになると、「責任」の問題にぶつかる、「この仕事は日本の民族に関係している」とか

「これは世界人類のため」という問題はまだまだという時期でも、例えば企業体に入っている場合にはその一つの仕事が企業の運命に關係があるという問題には必ずぶつかる否、毎日の一舉手一投足がそれにつながりがあるのである。

だから、社会に出て何年か経つと、責任に対する考え方は極めて厳しくなる。責任の観念のはつきりしない人が社会から脱落するのは止むを得ないということはつきりとわかるようになる。そうなれば一面社会人として一人前ともいえるのである。

大学の学生の社会というのは社会の幹部候補生としての社会である。従って、社会がこれを見る目は極めて温かい、社会は大人として学生をあつかうが、これは大人としての訓練をするためのものであって、大人としての責任は刑事問題を除いてはあまり追及しない。私も学生時代には大人のこういう見方に甘えた考をもつたこともあった、恐らくは、殆どの学生がそうであったのではないかと思う。

然し、この甘えは実社会には通用しない。実社会は真剣勝負の世の中である。失敗をし、或は人に迷惑をかけたらいつでも腹を功を覺悟がなければ世の中では通用しない。私も実は何度も進退伺いをしたことがある。

然し、こういう厳しい世界にこそ人の情とか人の情の美しさを感じることが強いということは事実である。

諸君のこれから世の中は今までと違ったきびしいものであることは間違ひの無い事実である。

然し、その中に、今までにみられなかったもっと強烈な美しさをも求め得るであろうことを信じたい。



## 人間の幸福

電気工学科教授 木村三郎

人間と動物とは何処が違うか、人間には本能の他に良心がある。動物には本能のみで良心がない。良心のないものには不幸とか幸福とかを考える能力はない。考える能力のある人間は、考える観点を置き換える事によって、一つの事柄でも色々な考え方から色々な結論になるものである。普通の人間は、自己を中心に物を考え勝ちである。自己を中心行動すると、他人はどんな事になってもよい。他人の事を考えないで自己のみの幸福を願うと、他人が不幸になる場合と反対に幸福になる場合とがある。又他人に全々影響のない場合もある。眞の幸福は、自己も他人も幸福になるような行動が最もよいのではないか。自分が満足して幸福だと思う事は自分が半断するのであるから容易であるが、他人が満足してくれるものか、不満足と感じているかを判定する事は、余程注意しないと判定しにくいものである。従って人の事を考えないで行動するようになり勝ちである。昔なら家の為とか、親の為を考えた。しかし現在は家も、親もなくなっている。自分のみを考えればよいとされている。そんな考え方で人間の世界は、皆んなが幸福に平和に暮らせるものでしょうか。よく考えて見て下さい。私は絶対に皆んなが幸福になる事は出来ないとと思う。世界中に百数拾の国が出来て、地球に多数の国境が出来た。そうして國の中は法規によって何とか人命は保たれている。しかし國と國とが争い出すと最も大切な人間の生命は、争場に於て、人間の考え方、武器によって、多数のものが殺されて行く。殺すものも殺されるものも人間である。過去から現在までの戦争を眺めて見ると、争が長く続き、争いに参加する人數も段々と多くなっていく。今では争う場所も戦場とは限らない。いつどこでも生命を失う危険がある。平和だと思っても、権力者がボタン一つ押せば原子爆弾は何処へでも飛んで行く世の中になった。その権力者も我々人間の仲間である。大きな争いの陰には人間の生命は簡単に失われる。その反面に権力者は

仲々生命は失われない。争いは生命を失うものと生命を維持できる者に別れる。現在は争いの他に公害を生じて、人命が失われ、交通地獄によつて人は傷ついている。

一方では何の被害もなくよかつたよかったです暮している人間もいる。この大きな誤りを何とかしないと地球上は段々と住みにくくなるのではないか、と思われても仕方がない。

しかし人間の個々の力は世界の平和をどうこう思っても急に直せるものではない。自分の出来る範囲は狭く、又やれる能力も限られている。その範囲内でやれるものから少しづつでよいから実行する事によって自分の周囲をよくする事が出来るのです。よいと思った事はすぐ実行する事です。悪いと思った事はやめるべきです。良いとか悪いとかの判断は、自分の持っている良心が決めます。その良心の判断が悪いと自己のみ中心となって人に迷惑を掛ける事になるから、迷惑の掛けた人は良心の悪い人に注意しないとこの世の中はよくなりません。日本人はよいと思った事も仲々実行しない人間です。特に悪いと思った事を注意して人に悪い感じを与えるよりも、自分が我慢した方がよいと考えて注意しないものです。その結果は悪い事をする奴はどこまでも悪い事をするようになります。我慢するにも限界があります。どうか皆様勇気と真心を持って悪い事をする奴に注意する事にしましょう。その前に良いか悪いかの判断の基準をしっかり握って置いて頂きたい。それは私がいま述べた中に書いてあります。その基準を知らぬ人は、今一度始めから読み直して下さい。

自分が最も大切なものの、その自分の幸福は、自分の周囲の人々が幸福になって始めて眞の幸福を味う事が出来るものである。



## 同窓会員の皆さんへ

機械工学科 講師 中 井 利三郎



実験室の窓に明るい早春の陽が射し込み、学生達はいま熱心に卒業研究の総仕上に全力を傾注しています。何年か前のみなさんの姿の再現といえましょう。

その諸君達も既に社会生活に馴れ、技術革新の著しい産業界に於いてご活躍の趣、まことに心強い限りに存じます。

私もお陰で嬉しい勤務を続けております。このたび本誌に何か書くようにとのことですから同窓会に關係したことを一、二述べることと致します。

私達の生活の中にはさまざまな会合が催されますが、何といっても嬉しいのは同窓会です。遠慮のない同窓が、なごやかな雰囲気のうちにお互の健康を祝福しながら苦労話や成功談に刻の過ぎるのを忘れて話に花を咲かせ、若い人達は、成長した級友の姿に驚きの目をみはったり、先輩を紹介されて懇ろに挨拶をするなど、各人各様の懐旧と友情に浸っています。やがて宴酣ともなれば、声高らかに校歌の合唱。美声、蛮声が入り混って一大交響曲となります。級友相抱く喜び、ここに極まるといえましょう。年に一度の催しではあるが互に励ましあい、厳しい世の荒波を乗り切ってゆくための一つの力ともなり、意義あることに違いありません。

次はアメリカの大学の話ですが、年に一回母校を訪問する日を作り、一日学生に若返って登校し、先生方と膝を交えて親しく話し合い、級友達は肩をたたきあって旧情を温め、あるいは若い学生達とクラブ活動を愉しむなど、学生時代に立ち返って嬉しい一日を過ごすとのことです。先輩と後輩がこのような環境の中で温かい結びつきの気運を作り、社会生活の一部の面にも触れさせて人間形成に役立たせているという

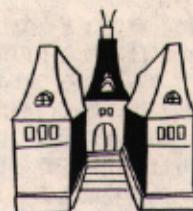
ことをききました。科学が進歩するにつれ、人間は物質面のみに走り、いわゆる人間らしい精神面はとかく忘れ勝ちになる今日この頃、大変よい行事だとおもいます。

つづいて会員名簿のことですが、会の発展は一にこの名簿の充実にあるといってよいでしょう。会がどんな活動をするにせよ、先づ第一に要求されることは会員間の緊密な連繋がなくてはならないということです。これは私の理想かとも思いますが、卒業生原簿に卒業から死亡までの動静が詳細に記載してあります。

死亡後は遺族の住所までわかるような事務処理ができればまず完全といえましょう。これは同窓会事務局にとっては大変な仕事であることは勿論卒業生のふかい理解と協力ー根本的には母校愛の如何によるものと信じます。

同窓会の発展はすなわち母校の発展であり、卒業生は美しい一本の紐につながれた同志であります。社会に出てからの職業、地位、年令の如何にかかわらず、永久にこの友情と団結の花園を荒らしたくないものです。私も一職員として何かの形において工大同窓会のお力になり得ればこれ以上の喜びはありません。

卒業生の皆さんのご交誼をお願すると共に未長きご発展、ご多幸をお祈りして筆を擱きます。





## 師弟の心

一般教養教授 大槻正一

学生の中には、師弟関係を、単に長幼の関係即ち先輩後輩関係と同一視し、甚だしきに至っては、単なる朋輩関係に過ぎないと主張する者さえあって、そういう數は近時急激に増加してきたようにもわれます。私は終戦直後まで、広島高師教授を本職として、多数の学生生徒を教えてきました。教育方針が今日と違っていたので、ずいぶん厳しい教育をした場合もあったと記憶しますが、またその反面には、たとえば、酒好きで悩む生徒をひそかに自宅へ招いて、夜を徹して、心おきなく痛飲させた思い出もあります。飲酒喫煙は学校のご法度であったからです。高師を出て三十年経った卒業生の会合の席へ、旧師の一人として招待されたとき、「先生のノートは今なお保存して、なつかしく思っています」と挨拶をされて、私は、とても、うれしくおもいました。

私は、今日でいえば、一般教養に属する独逸語・英語・哲学概論・論理学を講義したので、昭和21年頃までに、広島高師や第二臨教を出した卒業生は殆んど全部、私から何かを教わった、謂わゆる曾ての教え子あります。全国いずれの地へ参りましても、現職に在る教え子たちは、皆地方の重鎮として活躍しています。或ものは頗る幸運で、他のものに較べて、著しく顕角を現わしています。たとえば、数多くの文博・理博、殊に学士院賞の受賞者、国立大学学長、本省の局長、大県の教育長、新らしく公選された琉球の首席さえ、私の昔の教え子です。

もし、師弟関係が単に先輩後輩関係に過ぎないものであったとしたならば、私は未だ人間として充分に修養が至っていないから、私は後輩に追い越され後輩に出し抜かれた、先輩として、たとえ諦めるにしても、心の一隅に、多小羨むとか或は妬むとかいった主我的な気もちが起るということを、正直にいって、否定することができないかもしれません。いわんや、師弟関係がもし単なる朋輩関係だとしたならば、尚更らのことです。

然るに、実際はどうでしょう。教え子の旧師としての私は、教え子の榮達をみて、羨んだり妬んだりするどころではありません。私はそれを怡も我が事の如く、心から喜びます。未だ人間としての修養が至っていない私でも、このことばかりは、正真正銘の事実であります、いささかの偽善粉飾もありません。

他人が自分よりも偉くなったり、裕福になっ

たり、学問技術の業績が進んだり、仕合せになったりした場合、換言すれば、他人が自分を出し抜いたとき心から嬉しいものは、生みの親と教えの親だけあります。昔から、師弟関係が単に先輩後輩や朋輩関係にではなく、むしろ親子関係に擬えられた所以がここに在ります。

ただ、今日は、一般に、この点の認識が、少なからず、低調になっているだけのことです。だからといって、今日は、昔のよう、「三尺下って師の影を踏まず」といった氣兼ねや配慮の必要は全くありませんが、教えを受ける学生々徒たる者は、教官は単なる先輩や単なる朋輩ではなく、教えの親であるという事実を素直に認識して、今少しく、教官に対して敬意を表して然るべきではないでしょうか。

抑々、師を敬まって、利を得る者は、実は、師ではなくて、弟子自身である。師を師として敬うほどの弟子には、それだけの功徳があるといわなくてはならない。蓋し、神を敬まても、敬まわなくても、神ご自身には、何んらの損得もないであろうが、神を敬う人には、その敬う心が本人に回向して、本人自身には、それだけの功徳があるということは確かです。師を敬う心も、それと同じです。親子関係についても、同様で、親を親として敬うほどの子には、それだけの功徳が回向されます。

今日は、周知の如く、科学技術万能の世の中で「人間不在」の世相だと、憂慮されています。家庭における親子関係も、学校における師弟関係も、遺憾ながら、今や長幼の序即ち先輩後輩関係をも飛び越えて、単なる朋輩関係で塗り潰されようとしています。最近、各地に頻発している学園紛争を見る、学生生徒の教官に対する態度は、真しく、この世相を如実に表現しています。然し、教官も反省しなければなりません。学者ではあっても、師心のない教官もいます。教官に師心が無く、学生生徒に弟子心が無い学園には、紛争が起き易い。そういう学園は多くの場合、謂わゆるエリート大学やエリート高校です。然し、本質的に批評すれば、そのような学園は、「底の浅い山川の瀬」のようなものだから、あだ浪が立つのであって、「底の知れない淵」ならば、容易に騒ぎは起らないであろうと思われます。私は愛する学園が、容易には騒がない紺碧の深淵であって欲しいと思います。

# 会員便り

## 「入社一年目」

昭和42年度電子工学科卒 島田 裕

早いもので学校を出てからもう十ヶ月、後二、三ヶ月で1年になろうとしています。

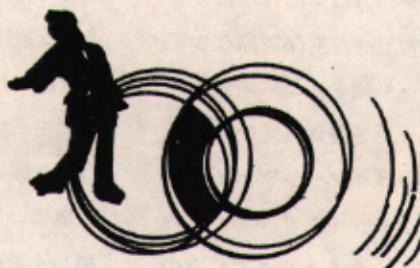
先日、社会人として後から来る人達のために何か助言の様な事を書いてくれと云われ、不承不承ペンをとってはみましたが、何しろ文章がうまく書けるくらいなら工大等へ入らずに文科系の学校へ行っていた、と云うぐらいの筆不精ですから、とても助言等と云う大それた事は書けそうにありませんのでこの1年、学校を出てからの今日迄の出来事、及び会社の紹介の様な事を書かせて頂きます。

先ず会社の名前ですが、「大協株式会社」おなじみの酒処、西条町から広島へ向け車で数分の八本松町にあります。八本松はマツタケの名所としても有名な所ですが、近頃では近くに大手電機メーカーの工場が出来たりして、静かな山の中の町から工場地帯の町として変りつつある様です。八本松町の将来の方は又後日と云う事にして、会社の業務内容ですが主な製品として、車の床にしくフロアマット塩化ビニールやカーペットと色々な種類のマットを作っています。次にはプラスチック製品ステアリングホイール、ベンチレーター、車のフロントグリル等々、各種部品が200オンスから80オンスぐらいの成型機で製作しています。他には、車のウインドーサッショ、製品を検査するための検査具、

変った所では時計まで作っています。この様に俗に云う、もうかる物は何でも作っている様ですが、近頃ではFRP（強化プラスチック）の方面へも手をつけ、小さい物では東大紛争等でもおなじみのヘルメット大きい物では、夏の海を疾走するモーターボート、船のエントツ等を作っています。以上が業務内容の概略ですが、次に学校を出てからの事を簡単にお知せします。入社式があったのが3月5日、その日から会社の側にある寮にとじこめられて約1ヶ月の新入社員教育、何しろ国鉄八本松駅から歩いて30分もかかる山奥ですから、教育が終り夜になると何もする事が無く最初の内こそ大人らしくしていましたが、日がたつにつれて高校を出たばかりの連中と一緒にになって、歌とも何とも判断のつき兼ねる大声は出す、レスリングまがいの大暴れは、やるでよいよやる事が無くなると週刊誌の写真を部屋中にはりつけ、それを的にナイフを投げる等と、今から考えると随分無茶苦茶な様でしたが、それでもある程度の規律のとれた生活はしていた様です。卒業式の時は2日ばかり休みをもらって広島へ出てきましたが、山奥にいたせいか、市内バスに乗るのがとても嬉しくて街の雑踏が妙になつかしく感じられたものです。その教育期間も3月31日で無事終了して今度は各職場へ配属です、私が配属され

たのは技術部技術一課技工係、仕事内容は前にも書きましたプラスチック製品の試作品作りです。その順序としましては、東洋工業から来た図面により、木型を発注し木型が出来上ると、それを真空成型機と云う成型機にとりつけプラスチック板（A B S）をその通りに成型して図面を見ながら仕上げをするのです。早く云えばプラモデル作りですが納期にせまられての試作という仕事は、期限切れのレポートばかり提出していた私にとって大変な事でした。最初の内は2、3回仕事の夢を見ていたが、この頃では図々しくなったか見なくなった様です、あの時はルーチュのマイナーチェンジもあって型作りに夜中の三時頃までやった事もありました。もっとも寝惚けまなこでやったせいか明くる日見てみるとまるっきり使い物にならなくて、泣くに泣けないこの様な時のためにあるのかと思った程です。そんなことで大忙しの時は忙しさにまぎれて考えもしませんでしたが7月も中半を過ぎ暇になって来るにしたがって、これまでやってきた電気に関係した事がものすごくやりたくなってきました。学校を出た当初は長年苦しめられてきた電気から離れてせいせいした気

持でしたが、何ヶ月も離れているとやはりやりたくなるのでしよう。あの時は課長をはじめ部長にまで心配をかけ中村先生にも色々と御世話になりましたが、気持がぐらついた時程学校のありがたさを感じた事はありませんでした。そんなことがあったせいか、9月の移動で研究室へ配置換えとなり今日に至っていますが、現在の仕事は省力産業の一つにとりくみ、在学中不勉強だったため又逆もどりで電子管の講義を聽講したりしています。不思議なもので学校時代わけのわからなかった勉強も必要にせまられてやってみると意外と良くわかる様になり、こんな簡単な事だったら何故もっと良くやっておかなかったのだろうと思う事もしばしばです。現在の仕事もっと詳しくお知せすれば良いのですが、仕事の性質上詳しく書く事ができませんので、このくらいで終らせて頂きます。書き出した時は整然と書くつもりだったのですが何だかわけのわからない事になってしまいました。最後に一言ある人の云った言葉です「社会は、会社は決して学校の様に面白く楽しい所ではありません。つらくきびしい所です、だからこそ会社は貴方達に給料を支払うのです。」……。



# 青春といふ旅

電子工学科 波田野秀明

私は過去四年間、自分で作った自由という枠の中で青春を楽しんだ。

大学は、勉学の場であると共に人格形成の場であるという学生の本分を忘れることなく精力的に躍動した。

旅、野球、ワングル活動、アルバイト、勉学、そして恋愛と数々の経験の中でいつも怠頭に置いていたことは、「若い時にあまりに奔放であれば心の潤いがなくなり、あまりに節制しすぎると頭の融通がきかなくなる。」という格言であった。

大学生活の前半は睡眠時間は平均六時間という若さで、何かせずにはいられないという気持が當時波打っていた。

技術者の卵である私は、比類のない芸術家であると共にすぐれた科学者、技術者でもある天才レオナルド・ダ・ヴィンチの「理論は将校で実践は兵」という言葉をかみしめていた。

理論（科学）を知らないで実践にとらわれてしまう人は、ちょうど基礎訓練なしに飛行機に乗り込む飛行士のようなもので、どこへいくにも案心して見てはいけないものだ。実践はいつも正しい理論に基づいて行なわれなければならぬ。

こういう考え方の中でも恋愛は別であった。

愛する女性が変わる毎に愛は変わり理論など存在せぬことを知った。

現在、劇的に谷間のユリの如き女性にめぐり逢っている。

かねてから公表しようと思っていた明智龍太郎の雅号で油絵を彼女に贈ったところ、彼女は非常に喜んだ。自作の贈物ほど相手の心を動かす（シラー）ものはない。私達の合言葉は「愛の光なき生活は無価値なり」である。

技術面ばかりでなく、精神面である哲学、宗教の分野にも片足を入れ人生を探究した。

そこで私は、人生は生まれた時の素直な気持（無我の境地）に戻っていくものであると悟った。ただし、その人生過程は芸術である。

青春は躍動するためにある。（明智龍太郎）我々、若者は、若さとバカで躍動しながらも数多くの格言や諺を吸収消化し人間味のある生活態度を身につけていく事も忘れてはならない一つであると思う。

私の文章は時々深呼吸しているが、ここが私の私たる処である。



## 『卒業の抱負』

電子工学科 竹中典彦

広島工業大学第四回卒業にあたり、過去四年間を振り返ってみる。

4年前に入学した時、今日の広工大の姿を果して想像出来たであろうかと思う位、立派になっている。

我々が入学した時は、建物も現在の4分1、学生数も8分1という状態であり、我々の入学式も付属工業高校の講堂で行われたのであった。良くなつたのは外観だけであろうか。内面的に良くなつたと思われる事の一つに就職の状況がいい事だ。これは、年毎の景気に大いに左右されるものであるが、それにしても今回の卒業生の就職は目をみはるものがある。

私、個人としても、6月という早い時季に内定した事は喜びでもあり、驚きでもあった。私の場合の様に、ある意味では大学入試に失敗した屈辱を3年間も持ち続けてきて、一流大企業に入社する事こそ最大の喜びと感じる友も多いことと思う。だから、就職決定こそ大学4年間のいきがいであり、その瞬間こそ4年間の結晶であると思うのでその一面を書いてみる。

私は、8年次の前期から就職には関心をもって調べていたが、いろいろの問題がおこりその調整にはかなりの期間を要した。

自分の希望を両親の希望のくいちがいが起きた

が、4年次の春を迎えると両親も自分の気持と理解してくれたので積極的に突き進む事が出来た。結果的にみて全て積極的であったからこそ、早川電機工業という家庭電化や産業機器業界における一流会社に入社が決ったと思う。しかし早川電機の受験を決意してから合格通知を手にするまでの2ヶ月半もの間まるで自分がドラマの主人公であるかのような錯覚におちいったことが度々あった。

採用内定通知を手にした時の感激は、栄冠を勝ち取った者にしか味わえないであろう。

この感激をよりいってう増してくれたのは、早川電機本社での夏期実習に参加して、他大学大半が地元の阪大、京大の学生ばかりであったが、合格定者と接して、今まで頭に描いていた素晴しさを初めて見たような感じがした。

これは、今の広工大においては見られまいかもしれないが、やがて将来個人個人が当然持つであろう、又、そのように切望する素晴しさである。

私にとって就職決定の回想こそ、卒業にあたつての抱負ということになろう。



# 卒業するにあたり考える事

昭和48年度電気工学科卒 坂上定夫

"Boys be ambitious!" とう言葉が私は好きである。北海道大学のCampusでクラーク博士の像を見た時、再びこの言葉が強く呼び起された。アカシア並木に象徴される広々としたCampusに相応しい言葉のような気さえした。私は以前S電力会社に7年程働いておりました。その当時の一人の先輩の部屋にいつもこの言葉が書かれていたのを見るたびに、私の信条にしたい言葉だと思って来ました。定時制高校を卒業したのがきっかけで、大学へ進学することになったのも、私の心の内にはいつもこの言葉が潜んでいたからでしょう。高校時代には、大学は私達の手の届かないところに存在し、崇高なもので学究の最高峰であり、憧がれの的でありました。その大学へ桜の花が咲き競う陽春うららかな良き日に、夢と希望に胸をくらませて入学して以来、早くも4年が過ぎようとしている。まさに「少年易老学難成一寸光陰不可輕」であった。今や卒業を目前にして感無量であると共に、深く反省している。ただ夢中で4年間を過して来たようである。しかし、その憧れも入学当初はこれが夢にまで見た大学の姿であり、そこに学ぶ大学生の行動なのかと失望が深まるこしづしづであった。そんな中でも、損得抜きで語り合える友を得、夜を徹しても語った数々、社会に起る様々な現象を私とは全く逆の見方から追究しようとする友を見る時、私の心の狭きが痛感させられ、もっと大きな心構えで物事を捕えていかねばならない事を知らされた。又学問においても、微分積分をふんだんに駆使する物理学や専門科目には、基礎の十分でない私にはますます理解が困難となり、学問の高さ、深さが思い知られた。4年間住込みのアルバイトで自分の力で卒業しようと思っていた私に座折感を抱かせたのもそんな時であった。昼は学校、夜と朝は仕事で授業中はいつも居眠りをしているような状態で、この貴重な大学時代を埋没させるのは忍びなかった。勿論2年間のアルバイトの中での数々の体験は貴重なものがあった。3年に進級した時、就職のこともあり、経済的見透しもついたのでアルバイトは辞めて勉強一筋と、下宿生活に移った。ここで目にしたものは、実に多くの学生が目的もなく暇を持て余し、マージャンにパチンコに

あるいは他の遊びにと明け暮れ、世の親達の想像を超えた荒廃した学生生活を送っている事である。「歌を忘れたカナリヤ」でもないが、試験を受けて単位さえ取れば文句はなかろう。勉強さえ出来ればいいんだろうという学生のいかに多いことか。現在の日本の自由な社会では、義務も責任も忘れ果てた若者の多いのも事実である。私もその中の一人かも知れない。何故こんな社会に、人間になってしまったのだろう。持ちたい夢も希望もないのだろうか。戦後、軍国主義から敗戦によって一度に解放された日本、老いも若きも、大人も、子供も、男も女も自由という空気を胸いっぱいに吸い込んだ。そして人の心とは離れて科学は進歩し、産業は発展し、個人主義が普通となり、責任も義務も、仁、義、礼、智も忘れ、権利だけの自由がはこびこった。戦後28年、今や社会は大きく歪んでしまっている。人の心を他所に物質文化が横行し、自由で豊かな文化的な生活が営めるようになったと国民多数は感じている。国際社会においては戦争が絶え間なく続けれられ、国内においても交通戦争、機械化による人間除外、幼稚園から大学までの入試地獄、教師や役人の汚職、独立国に相応しくない米軍の基地、工場の公害、沖縄や北方領土の問題、物価の上昇、自衛隊に見られる再軍備、マスプロ化された大学あるいはエリート意識の東大の問題など諸々の大きな問題が毎日のように新聞紙上を賑わせている。果たしてこれで私は文化的な人間らしい生活を送っていると云えるだろうか。人間の心、道徳を忘れた社会にますます深入りするのではなかろうか。希望を持つという方が無理かも知れない。しかし私達は今や大きな岐路に立たれている。古代を背負って立つ若者なのである。もっと人間尊重の眞の民主主義に向って世界の平和を願い、人類幸福の探究に、さらに大きな希望を持つ時ではなかろうか。

"Boys be ambitious"

のように



## 雜 感

昭和43年度電気工学科卒 打田博之

卒業を目前にして私の感じた事を一言述べてみたいと思います。1学年の中頃から感じた事は、時間になんでも教室に入らない学生がいたり、又遅れて来てだらだらと入って来る学生をみるとたびに「学校という所は時間をあまり気にしなくてもよい所だな」と思いながらまるで実社会の競争意識から取り残された生き残り集団のような感じを受けてその光景をつらつらと眺めていた。4年間過した今日も全く同じ光景である。これを学生自身の手で改善し「時間は絶対に守らねばならない」という信念を当大学の風潮の中に取り入れてもらいたい。何故このように申すかといえば、社会人となって社会の大渦の中で生活するには時間がどうしても付いて廻る。即ち人間が組立てた時間の中で、又人間自身が作った規則で時間に拘束されているからである。私が特に時間に关心を持っているのは、私の性質がせっかちな性質かも知れないが、停電工事の経験で時間を守るという影響を受けた事の方が大きいようだ。時間を守ることは他人に対して信頼感を与えると共に自分の利益になることがしばしばある。又現在の工大におけるチューター制度はもう少し活発にすべきである。現在のチューターとなられる先生方の数が少ないという事情もあるが、1年に2～3回程度の集会を開いていたのでは、学生と先生間との親近感が盛り上ることを期待するのはまず不可能である。一方学生側も親近感を盛りあげる事に協力し、この集会に自動的に参加し、お互いに何でも話せる集会にすべきである。このようにする為には定期的に集会を開くと共に最低1ヶ月に1回は必ず開き、ただ単なる集会だけではなく映画会等も取り入れるべきだと思う。何故こ

のようにするかといえば、実社会に出て最初に困るのは、多数の面前で話をしなければならない事になった場合、多数の人は話をするという経験が少ないので面喰う事が多い。学内の集会によって場慣れしていたならば、少しもあわてる事なく落ち着いて充分に納得してもらえる様な話が出来るわけである。一方この様な集会を開くには色々と連絡を取らなければならない。この連絡を取るという習慣をつけてもらいたい。社会に出て常に心掛けなければならぬのは、直接の上司に連絡を常に取るし、又取れる状態にしなければならない。学生諸君、おおらかにしていたのでは遅れを取りますぞ……………次にこれから社会情勢においては実力主義の世の中に変りつつあると共に、科学技術の目覚しい発展を続いている。即ち旧来の技術では役に立たなくなり、新技術を身につけた技術者のみが社会で重宝がられる時代である。これに対処する為には常日頃から自分の専門ばかりの勉強をするばかりでなく、他分野の一般常識となる事や、大体の傾向をも知っておかなければならない。もし、これを怠るならば、職場の偏屈屋となったり、あるいは時代遅れの専門屋という仇名を頂戴する事になる。この思わしくない仇名を頂戴する事のないように日夜頑張りましょう。以上私の雑感をごたごたに並べ立てましたが、皆様の何かの御参考になれば幸いと思います。



## 卒業にあたつて

昭和48年度 機械工学科卒 国 田 晃 司

月日が経つのは早いもので広島工業大学に入学以来4年、卒業にあたった今日、過去を振り返って見ると、まるで夢の様に過ぎ去ってしまった。しかし、その間にはいろいろと数多くの出来事、数多くの思い出が残されています。そこで私が頭に浮かんだままを、ここに綴つて見る事にした。5、6年前、国道2号線沿広島市外五日市町の三宅の丘に一見ホテルらしい鉄筋コンクリートの建物が緑の松林にはえ登みきった青空にくっきりと浮く風景をしばしば見る様になった。この風景を見て世の人は「あれは学校だ」と思ったのはあまり居なかっただろう。当時高校生であった我々達でさえ「ホテルだ、いや病院だ」と疑つた位であった。我々大学受験にあたって、あれこれと学校のうわさを聞く様になった。工大生を見るたびに落ち着きがありかつ楽しそうに思えた。それに「学校の内容が充実し、学生は誠実である」と聞くのであった。そこで我々の友達の中で広島工大のうわさが上り、広島工大に行きたいという気持を話し合つたのであった。

その年の2月、受験する為にこの大学に来た。「ずい分きつい坂だな」と思いながら故鈴木教授の言う「勝利の坂」を登った。頂上について見るとその疲れもどこえやらとても気持よく眼下に写真でも見ている様な内海の島々、それに霧にはえる巣島を見下しながら新鮮な空気を思う存分吸つた。広い教室にきちんとされた机それに多くの製図板などを見つけると私はどうしても、この大学に入学したくていっしょけんめいであった。幸い私はこの学校に待望の入学が許可され、天にも昇る心地であった。

そして私が大学に入って一番印象にのこったのは地学の講義であった。というのも、あの流調なる話しつぶりにもまし一言一言がピリット身にしみていた。教授は毎年、「我がおいたち」から始まり「秋吉造山運動」に至る講義であつたらしいが、教授の口ぐせであった「genious is Patience」すなわち「天才は努力なり」と言う名格言である。

いま考えて見ると「努力は何にもまけない宝だ」と身にしみて思う様になるのである。それに付け加え教授の出席を取るのがまたたいへんであった。教授が学生番号を出席簿を見て読むならば、自分の番号を読まれた学生は、自分の

名前をはっきりと答えるのである。それも教授は順番通り読むのではなく、「1番、2番、3番、15番」というように急に番号が飛ぶので学生は出席を取る時は、猫が鼠をねらったかの様に耳をすまし返事をするのにいっしょけんめいであった。そんな教授を我々は父のように思っていた。今考えて見ると楽しく思えるが我々が一番印象に残ったのはこの地学の講義であろう。

それから私が就職でいそがしくなった4年の春であった。あの元気であった鈴木教授が急死されたのである。我々は驚きと同時にどうしても信じる事が出来ず、うそにしか思えなかった。でもこれは真実であった。あの先生の講義を思うたびにあの言葉が思い出せてなりません。きっと教授は天国で我々工大生のことを見守って下さっている事でしょう。

学生の年中行事として春の体育祭、秋の大学祭、数多くのパーティー、音楽会などが思い出される。大学祭に至っては、今までのうっばんを晴らし過去を忘れ自分自身を忘れて市中パレードに参加し、前夜祭には飲み、友とかたり合つたことが思い出される。その大学祭は参加人員も年々、増し、大学を思う気持のもりあがりを感じた。名実ともに広島一の大学になりつつあることを感じた。これも教授、学生の皆さまの偉大なる力だと思います。

現在、多くの大学紛争が世の中の人々を、おびやかす様になっている。我々は卒業にあたって、わが大学だけには、あの様なクーデターにも似た紛争だけは、理由はどうであれ、してもらいたくない。もしどうしても、あれだけのエネルギーを発散したいなら、わが工大には幸い、あの広い野球場、ラグビー場などのスポーツ施設があるので、これを多いに利用し、スポーツによって若きエネルギーを発散してもらいたい。

我々が今日、卒業にあたり数多くの先輩の方々の意志を引きつぐと同時に、今後ますます広島工業大学が名実とともに日本一に発展していく様、お互いに力をあわせて進んで行こうではありませんか。



# 余計者の良心

昭和43年度 土木工学科卒 古 谷 秀次郎

たった今もあわただしくそれでいて落着き払った動作で、4年間目にし手にした品々をボール箱に詰めている私だが、これから先、二度手にすることは既にないおそまつな身廻品、そうでないものは余計者であるがゆえに愛着を持ち続けた本が散らかっているばかりである。あれほど足軽く大手を振って入籍した広島工業大学すなわち、私の貴重な生活集団であったのに、ある日突然に一部の保身的かつ非教育的教官と盲従的もしくは強いて無頓着でいようとする多くの学友に期待を全く踏みにじられて、あるときは一人しみじみと自己批判し、またあるときは大声で嘆きたて、ただの一度も快い居心地にそれ以来なれ得なかった。実際、よくもまあづうづうしく在籍を保ち、生活をして来たものだ。

こういう私に自身からならずしも失望はしていない、むしろ展望は洋々としているのである。それだからこそ精神的栄養の欠乏した、青年の持つ真理を探求してやまないそのエネルギーを骨抜にした、いわゆる表装ばかりやたらと俗大人的な、へつらう心で満ち満ちた形枠的生活集団に在籍しておれたのだと思う。

これから口にするぐちも、所詮余計者の僻みかもしれないが、それでもそれなりにその生活集団を愛し、明日のあらんことを願望して止まないのである。また同時に、現在を憂慮する。そのことに最大限の良心を払っているのである。どうして今さらこんなことをあえて口にしようとするのかあるいはそこまで余計者になった原因には、とっくに成人していて当然有人格者であるはずの一連の私達一余計者は単数では決してなかったから一を含めた同胞的集団に対して、あたかも幼児にでも対しているかのごとき、それも愛情抜きで、取扱いを一貫して受けたからであろう。こういう発想の仕方は当生活集団の下での「じょうしき」では甚だ遺憾とされる部類かもしれない。どうかこの生活集団のヘゲモニーを握り、イニシアティヴをとっておられる諸氏、聞く耳と余裕ある心で一度呑込んでみてほしい。

事実 当生活集団では、あまりにも人格的個人の活動が架空の伝統に対する服従という方向に性格的に決定され、疎外されている。逆に、そうだからといって、これらの生活集団での個人が能力が礙わしいとか、ヘゲモニーや賞讃、ときには大きな願望を發揮することができないとかいうことにはならない。じっさい、いたるところでうな

ずけるように、未開な生活集団での個人は、近代メカニズムのある部分における有人格的個人よりもはるかに高く評価され、尊敬を受けているのである。なぜなら、伝統に依存する生活集団での個人は、その集団の他の成員に対して明確な機能的関係をもっているからである。ただし、この生活集団が、広く社会での生活集団に合致し、移行出来るか、もしくは受け入れられた時にのみ、その可能性は出て来るにすぎないそれでも殺されずに済んでいるかぎり、彼らは集団に位置しつづける。しかし、彼らが位置しているというまさにその事態のゆえに彼の意識的選択によってえらばれる生活の目標は一顧わくば、人間のあり方がここに究明され、かくて單なる人生観ではない世界観こそが不可欠的因素をもって確立されなければならないのだが一きわめて小さい範囲にしかない。誠に残念ながら、こうした生活集団には進歩という可能性がほとんどないということをそれは意味するに他ならない。いま一つ余計者にとって憂うべき当生活集団の特質は、形式上のみではあるが機会あるごとにバツクボーン的位置を目論んでいるところの形而上学的関わりである。なるほど、在籍者をその在籍において表象し、またしたがって在籍者の在籍そのものを思考はじめている。しかし両者の差異を考えていない。すなわち、在籍そのものの持つ根元的真理をたずねようとしている。だから当生活集団では、有人格的個人の本質がどのような仕方で在籍の真理に属しているのか、決して問おうとしないのである。

これらのことと真じめにふまえない限り、余計者は増えづづけ幾多の危険的障害はさけ得ないだろう。どれだけ多くの余計者が満足感を意識しないままに他の生活集団に巣立って行くのかということも合せて心に受けとめてほしい。こんなぐちをこぼしながらも明日からは若干の科学的合理主義を取り入れつつ所詮本来の人間として恥ずことのないヒューマニズムの観点より全ての物象に対しつづけてゆくのである。

また、末筆ではありますが、お世話をはじめ、助手の方々に心から感謝の意を表する次第です。



## アホンダラ人生

わいは やったるで／  
やるのはわいや  
人にあほんだらといわれたかて ……／



昭和43年度 建築学科卒 竹内朋司

同じことを50回もくりかえす。しかし覚えられない。わざわざ洋画を日本語の字幕をみずに見る。一年に108も映画を見る。なまいきに英字新聞を片手に街を行く。毎日毎日、字引きとにらめっこして、字引きがよこれるのをみてよろこんでいる。こういうバカを“あほんだら”と、いう。あほんだらが自確しながら赤い表紙の字引きと友達になった。彼は、あほんだらを、よくたすけてくれた。彼は私の親友だ。楽しい時も悲しい時も彼は、だまって私をなぐきめたり、うちょうてんにさせたりした。彼は時々、私が友達をつくるのに、手だけをしてくれた。しかし彼のために私は、よく絶望した。何度か彼と縁を切ろうとした。別に私は彼のことを好きでもなかったし、彼にあうたび、うんざりさせられたからだ。しかし彼と逢ったのが何かのいんねんだろう。もう少しそう思いながら彼と交際をしつづけてきてしまった。気がついてみると、私のあほんだらライフがそこにあった。4年間のつきあいだが私は彼の  $\frac{1}{100}$  も理解していない。絶望させたのも彼だしうちゅうてんにさせたのも彼だから、そんなにさせた彼がにくらしい。だから彼にふくしゅうしてやるつもりだ。彼を全部しったら彼に絶対絶望させられることはない。そのかわりもう二度となぐきめてくれないだろう。

どうせ私の人生はあほんだら人生だ。とことん彼とつきあってやるつもりでいる。もし私が彼と逢わなかったら、私はあほんだらじや決してなか

ったろう。だが今私は、あほんだらになりきるほど好きな友達がいることをほこりに思っている。私のキャンパスライフは、まさしくあほんだらライフだった。

今日も又、あほんだらが街をいく。人にあほんだらと呼ばれながら。なんにも知らないあほんだらが、又同じことをくりかえしくくりかえしながら。一体このあほんだらは、何を求めているのだろうか？ もっと身近かなしあわせを求めるべきなのに。このあほんだらは、本当に一生あほんだらで終ってしまうのか。あほんだらには、あほんだらのこととはわからない。あほんだらをわかるのは、うすよごれた一冊の英語の字引きだけだ。



# 準会員便り

自治会長 今井正明

卒業生の皆さんへ、おめでとうございます。卒業されたご感想はいかがですか。心にゆとりのできたようだ学府からさらさらねばならない悲しめと、社会に出て行くことと不安とが入り混じて複雑な気持ちでおられることがあります。しかし皆さん、我が広島工業大学を卒業されて社会に出るのであって工大を一生皆さんのお校として忘れることなく暮していってください。在学中に学ばれた経験を心の糧として生かし、また暖かい目を持って、工大を又在学生を見守っていてください。卒論グループ、サークルグループ等での楽しい思い出、苦しかった思い出どちらにしても今皆さんとしては、懐しい思い出だけにすぎないと思います。がしかしその経験、体験というものが社会に出ても自分としての物差として頭の内に持つておくことができるのではないかでしょうか。我々在学生もそういう経験ができるだけ多く取り入れるごとく、つとめていきます。その為にもセミナーとか学生会館の設立を進めていくべくつとめ、やむなくサークルに入る事ができない学生に対しても学園でのより有意義な生活が出来るよう行なっています。また大学祭体育祭等の行事も盛大にし、全学友の参加を願いながら運営していく、O・Bの皆さんにも学園の成長を見てもらうことのできるようにします。

私たちが入学した当時(40年度入学)は、山の上の5、6号館の建物だけでしたし、雨でも降れば長靴なしでは、絶対に歩いては登校できなかった事を、今思い出してみると現在上から下まで15号館もの建物が立ち並び学内道路もすべて補装されています。4年前を考えてみたら夢のようだったことが現在は上に昇るのがきついとか現状には満足してはいません。又学生自体も少しづつではありますが自治会員である

という自覚ができ初めてきているように思います。我々執行委員にしましても勉強する点が數多く残されておりますが、私たち10人は卒業生の皆さんの為にも頑張っていかねばなりません。又卒業生の皆さんも工大の名聲を全日本に轟かすよう動めてください。そうする事により名実ともに充実した学園ができあがってくるのではないでしょうか。

我々執行部の今後1年間の目標としては 学生全体に漂っているマンネリ化を打破し学生一人一人が人間的なつながりを持つことができるような雰囲気を作り上げていくことです。その為にも学生と執行部との話し合いの場を設け執行員が学生の内に入り込んで行くよう努力していきます。ここにおいて自治意識の向上はもちろんの事、人間性の向上へもつながってくると思います。最後に学生時代の友情は大切にしてください。友情の無い人生は空氣の無い地球と同じです。

\*\*\*\*\*  
\* 昭和44年度執行部 \*  
\*\*\*\*\*

会長	今井正明(4気)
副会長	村上信美(3建B)
"	能浦直行(3建B)
書記	入山元彦(4土)
"	藤井敬一郎(3機B)
"	竹内一三(3機B)
会計	小林猪次郎(4機A)
"	田村俊一(3土)
体育局長	石川計幸(4建A)
文化局長	稻田徹(4機A)

昨年、体育局では、我学園において最も欠けているものは何であろうか？という問題を追及、検討した。

その結果として「学生の尊徳心の欠乏」ということが我学園において先ず解決されるべき問題点であろうという時点に至った。この問題の対策としては、先ず体育局が、局としての組織力と自覚、責任ということを通して局内から道徳の徹底を先駆し、礼儀を刷新することとなった。そこで考案されたものが、本年1月より採用されている体育局バッヂである。これは、各部より提出された多くのデザインの中より厳選されたもので「若さと勝利」を表わす「Vサイン」を、石噴時代の首飾りのイメージを基調にしてデザインしたものだ。

なお、このバッヂは体育局所属のクラブ員全員が着用し、回生によって次の様に色分けが成されている。

1回生	.....	白	色
2回生	.....	紺	色
3回生	.....	銀	白
4回生	.....	エ	ン
5回生	.....	金	色

次に各部の戦績、活動状況、今後の活動予定など、最近のニュースをお知らせしよう。

#### <ラグビー部>

我部は昨年1月～3月に行なわれた広島ラグビーフットボールリーグ戦にCブロックで出場し、Cブロックにて優勝した。  
本年は、Bブロックの出場権を得、本年リーグ戦の結果は次の通りである。

・1月15日(水)

工大20 ( 9 - 6 ) 9 三井東庄  
11 - 3



・1月19日(日)

工大17 ( 3 - 3 ) 9 パブコック日立  
14 - 6

・2月2日(日)

工大0 ( 0 - 28 ) 4 3 安芸クラブ  
0 - 15

・2月9日(日)

工大24 ( 8 - 18 ) 2 4 術科学校B  
16 - 6

・4月初旬

春季強化合宿(1週間予定)

#### <サッカー部>

広島県リーグ3部入替戦

・第1回入替戦(1月19日)

工大0 - 2 県庁

・第2回入替戦(1月26日)

工大3 - 2 県庁

・3月22日～30日

春季強化合宿(本学)

・6月中旬(予定)

西日本学生蹴球選手権大会

### <バレーボール部>

- 4月 26, 27日 春季県リーグ
- 5月 2日～4日 近畿インカレ
- 中四国大会(予定) 5月 10日, 11日
- 5月 17日, 18日
- 6月 7日, 8日
- 6月 20日～22日 西日本大会(予定)



### <ボート部>



第21回初日レガッタ

- 全日本ジュニア戦 S 43 11月 2日, 3日
- 広島ロングレース S 43 11月 17日 2位, 5位
- 朝日レガッタ S 44 4月 27日, 28日
- 中四国レガッタ 6月下旬

### ◦ 中四国学生リーグ戦

7月下旬

- 全日本選手権大会 8月下旬

### <柔道部>

我々は、第13回広島県学生柔道大会(S 43 11月 23日)に参加し、大会参加三度目に、団体の部で、広大の八連勝を阻み、念願の初優

勝の栄光に輝いた。

### [団体戦] 決勝トーナメント

#### 準決勝

- |    |       |    |
|----|-------|----|
| 工大 | 4 - 0 | 商大 |
| 広大 | 5 - 0 | 近大 |

#### 決 勝

- |          |       |    |
|----------|-------|----|
| 工大       | 1 - 0 | 広大 |
| 玉田(引き分け) |       | 松井 |
| 長尾(〃)    |       | 木村 |
| 入山(〃)    |       | 近藤 |
| 中本(〃)    |       | 徳永 |
| 柴田(〃)    |       | 藤野 |
| 酒井(〃)    |       | 井上 |
| 松村(優勢勝ち) |       | 花木 |



### <ハンドボール部>

#### 中四国学生ハンドボールリーグ戦

11月 2日・3日

- |     |        |   |     |
|-----|--------|---|-----|
| 香川大 | 13 - 2 | 7 | 広工大 |
| 愛媛大 | 12 - 2 | 4 | 広工大 |
| 近大  | 17 - 1 | 8 | 広工大 |
- これにより広工大は2部で優勝  
広島六大学リーグ戦  
広 大 10 - 2 4 広工大  
9勝1敗で広工大優勝



# サラリーマン一年生 の考えたこと (社会人一年生の感じたこと)

昭和42年度 機械工学科卒 横山 隆雄

(日本針工業株式会社)

例年通り会社において新入社員の迎える季節になったが、小生にとってこの1年は、あっという間であった。ふり返ってみると、一言に言って並な言葉になるが、サラリーマンはつらいということにつきる。

小生の会社、中小企業ではあるが戦前より広島の地に伝統あるミシン針の製造会社である。小生の所属は、設計課である。

中小企業だけに人手不足の今日で、在学中に実習(普通、入社後実習等があると考えられる)があり、卒業と同時に、所属につかされ定められたる仕事に携わる状態であった。

しかし自分にとって就職期には、なるべく大会社へと能力もないのに望んでいたが、中小企業、しかも、わが広島伝統ある会社に入社した現在、大会社の様に高給ではないが、毎日が楽しい、生がいのある仕事ができる小生は、幸せ者と思える今日、中小企業に入社して良かったと考えられるのである。

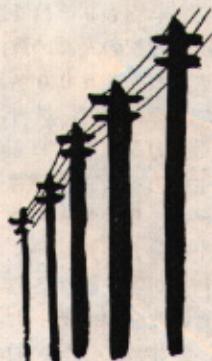
設計(製造機械)、及び諸研究するに当っても分らないことばかりで、色々な方面に、学生時代に手にしたことのないものがほとんどであるが、しかし、学生時代の学問及び先生の教えが目に見えない縁の下の力持的な働きをしている。

また、中小企業であるため自分で設計したものを作成しなくてはならぬことも恵みにしてある。大物の部品は鉄工所へ注文するが、社内で製作できるものは製作しなくてはならない。先日、小生初めて30万円程度の機械を設計製作し、しかも立派に生産工程に乗った時の喜びは、やったものでないと味わえないものであった。がしかし現在から考えてみると例えれば接一つにしても大学での実習が大きな+(プラス)になっている。

この様に中小企業では少數の手で、できる様にしなくてはならぬのである。

製造機械の製作というものは、安上がりで大量生産、しかも素人にでも(特に我社では女性に)使えるもの、これが、どの場合においても根本原則と思うがしかし中小企業において第一に特に考えなくてはならぬのは、安く製作できることが上げられる、安く、ある程度の精度を要求される場合があり又そうでないと、経営の方から考えてみても中小企業の場合、実現不可能となる。大学出の少くない中小企業において、大学出ぶっては、絶対に人は協力してくれない。つまり一人ぼっちになり何もできないということである。どんなつまらぬ又くだらない人でも話をし、そして聞くという気持で当たらないと人間関係は、うまくいけない様で、また、良い仕事のできる人間に通ずる道は開けないと小生は今日まで考えてきたのである。又今後も考えたいと思う。

今後小生は、人のきらうことは進んでし、人並以上のことのできる人間になることに、一生懸命第一自分のために母校のために、及んでは、広島、日本のために頑張っていきたいと考えている。



# 学園便り

## 母校の人々



雑感

井口友常

今般同窓会の方より、何か一筆書いてほしいとの依頼を受けいささか困惑しましたが、この度新しく同窓会会員となられた方々への御祝いの意味もこめてつたない文章ではあります、ペンを執らせていただきました。

私も大学につとめさせていただいてから、かれこれ6年になります。返り見るに人間の力の偉大さと、日々の蓄積の違大きさに今更乍ら驚歎させられます。以前は、山中に大学が、存在しておりましたが、現在では大学の中にわずかに以前の山の面影が残っているだけというほど、発展しました。

ここで私の仕事でありますものの中から、"自然と人間"という事について雑感をのべさせていただきます。

"人間と自然の戦い"人間は常に自然と戦い、そのものを克服して行くという意味だと思いますが又反面私は次の様に思います。"人間が自然への同化"という事です。自然を人間が作り

かえるのではなく、自然の中に人が入り込み同化するという事です。

だから私は常に自然の中に自分を置き、同化した状態で自然を育てて行くものと感じます。たとえば建物等について考えるに、その物に於いて不自然であると見られるのは、自分本位の考え方の中に作られたものであるということです。だから私は人間は自然に帰れと云いたくもあり、又自然に同化した時初めて自然の美しさ、偉大さ、そして人間の美しさが見られると思います。空いばかりでなく、自然な状態で人間社会に、云い換えれば大きな自然の中に自分を置く事だろうと思います。

あなた方が何年かして、又大学に帰って来る様な事があるかもしれない。その時に自然という父母の意味もわかつてもらえるものと思うし、又そういう様に育てていってほしいと思います。どうか常に健康で社会により一層役立って下さる様、祈念致します。



電気工学科 永成子（旧姓 吉村）

創立以来早くも9年目を迎えようとしている今日、我々母校の人々の数は、職員数、学生数を総合すると、3,500名以上のマンモス学園と化した。その中で、教育、補導、就職と我が身の如く努力を重ねておられる諸先生方及び本校卒業生である若き教育者達とによる学生とのゼミナール、及びディスカッションが最近めっきり多くなった。電気科においては、ゼミナール室の利用が多い為、各教室を捲すのにひと苦労するという一幕もあった。又図書館の利用率も増し、学生間の学習に対する意欲もここ1、2年目立って向上したように感じられる事もみ

のがせない。事実 今年度の就職は近年見る事の出来なかった大企業より次々と応募がき、その期待にそえる学生が数多かった。この事は今後の学園発展進歩の上には、この上もなくプラスとなって現われ、又後輩指導の上においても、良き指導者になる事も多いに期待できる。最後に、中四国随一と言われる教育設備と環境の中で、マンモス化しつつある本学園において、単なる教職員と学生としての教育の場としてではなく、この設備と環境を多くに利用し、広島工業大学独特の特徴を生み出す事も又、今後の母校の人々に残された課題の一つで有ると思う。

# 研究室訪問 〈その2〉



## 「私達の研究室」

機械工学科 助教授 斎藤徳行

私が広島工業大学の教官として、赴任しましてから早いもので既3年を過ぎることになります。その間、当然な事ですが、卒業生が夫々の処を得て社会へ出て行きました。私も数多くの教え子を持ったことになります。これ等多くの卒業生が、時折り機会をみつけて母校へ帰ってきて来ますが、その誰もが一致して言う話は大学の充実振りについてであります。事実始めて私が参りました時も、現在の本館はなくまた、体育館も後から出来たものであります。更に現在では水泳プールの建設中であります。各学科の建物の増加はもとよりですが、学識の深い教授の参画更には学生数の増加に伴う各研究室、実習室の充実など、全く昔の淋しさなど名残りもありません。もとより歴史の浅い大学ですので決して十分なものではなく、今後ますます規模は拡大され、内容は遙かに向上したものへと進むことあります。

機械工学科に於いても、教授は僅かに笠松教授ただ一人と云う淋しさでありましたが、その後、山本教授、松田教授が着任され、今度、堀田教授、高杉教授が尋任教官としておいでになられたわけであります。設備としましても、工作実習に旋盤、セーパーフライス盤などの工作機械が數点あっただけで実験室には材料力学教室の光弾性装置、内燃機関教室の小型ディゼルエンジン、水力教室の配管換失測定装置程度が主な実験装置であり、誠に心細い限りであります。その後、鋳造実習室、溶接実習室、鍛造実習室に次々に実習室も整備され、実験装置もガスタービン、回流槽装置、捩り試験機、オートグラフ、高周波電気炉、放電加工機など数々の高価な実験設備が設置されてまいりました。

現在、私は金属材料科学、溶接工学、工作機

械などを担当しておりますが私の赴任しましたときは私の研究室では僅かに数個の金属光学顕微鏡と硬度計及び小型電気炉が全財産であり、講義の進め方にも苦労も多く、学生実験も不充分なものであります。その後リールトバス、炭素量分析装置ショミニー試験装置各種光学顕微鏡などが確保されるに及んで、何んとか学生実験は間に会うようになりました。

その間、私の得ました最大の収穫は何んと言っても助手として極めて優秀な木戸光夫君を迎えたことであります。少い実験装置、充分とは言えない研究費、加えて数多くの学生と言う最底の研究環境のもとで、彼は私の良きアシスタントとして、実験計画の立案、実験装置の製作、卒業研究の指導、その他、学生の公私にわたる面倒まで全く天才的な力量を發揮し現在では私達の金属材量研究室の性格を形成する一つの重要な立役者になって居ります。

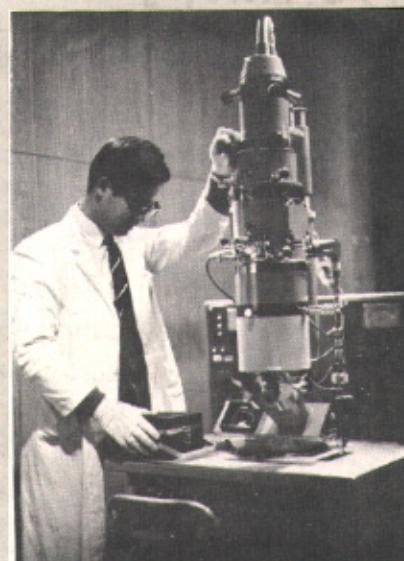
私達にとって誠に幸いな事柄が一つあります。それは昨年12月に待望の電子顕微鏡が設備されたことであります。私もかって、戦前学生時代には母校名古屋大学に於て、旧式4000~5000倍程度の電子顕微鏡は操作はしてきましたが、現今の高性能なものとは比較にはならずこれで私達は今後の研究に大きな武器を持つことになります。今回設置されました電子顕微鏡は日本電子㈱製作によるもので、その倍率は20万倍、加速電圧は、60キロボルト、解析能は7オングストロムであり金属組織の研究には充分な性能であります。更に附属装置としては試料傾斜装置、試料冷却加熱装置、写真装置、ミクロトーム、真空蒸着装置、超音波洗浄装置、電解研磨装置など数々の必要装置は殆んど完備され、今日現在我々の研究にはもとより他の研

究室からの依頼にも応じて、稼動しております。

この電子顕微鏡が設置されて未だ間もないことですが今までの光学顕微鏡では、到底解析不能であった金属組織も容易に検鏡できるわけで、その点では金属学的な別の新しい難問題を提起することになり私達も、今後当然起きてくるであろう種々の難問題に対処すべく覚悟している次第です。

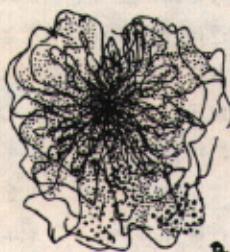
我が研究室では、学生の基礎工学としての金属実験及び卒業研究を行っておりますが、研究室本来の研究としては、オーステナイト系ステンレス鋼の溶接時に於ける材質変化の追求とか難功削材の切削性と金属組織との関係或は放電加工に伴う金属の性質の変化などに就いて全く地味な然も世間に於ては常に关心をもたれいる問題を研究テーマとしており、大学以外からも、その成果を期待されて居ります。

以上私達の研究室を中心として最近の大学の様子を一部紹介致しましたが、卒業生諸君も暇があれば、時々は来学されて、卒業した後の大学の姿を、実際に見て下さい。現在の諸君の毎日の生活とは別の、昔の世写を思い出して恐らく感激を新にすることでしょう。

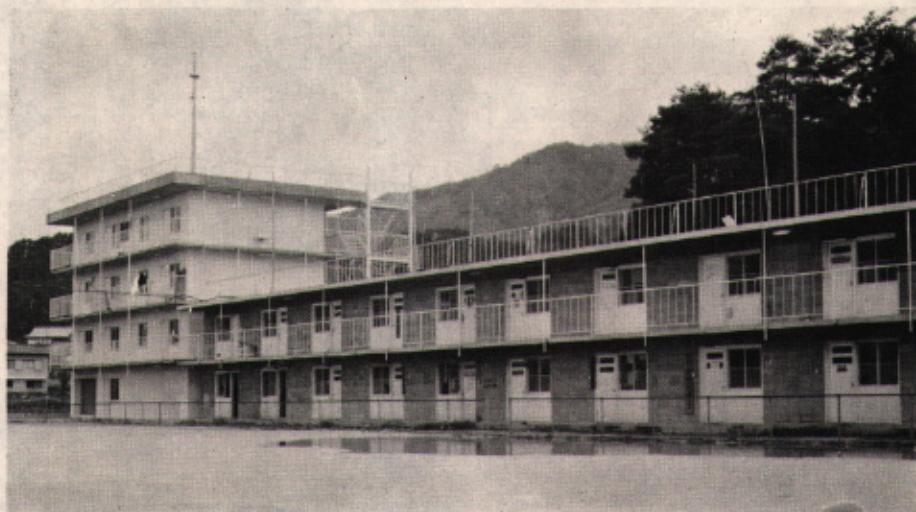


紙面の都合もありますのでこれで筆を止めますが、文面の少々堅くなってしまったことをおわび致します。

44-2-10



# 学園現況 三写真紹介



新築されたクラブハウス  
(向つて左側)

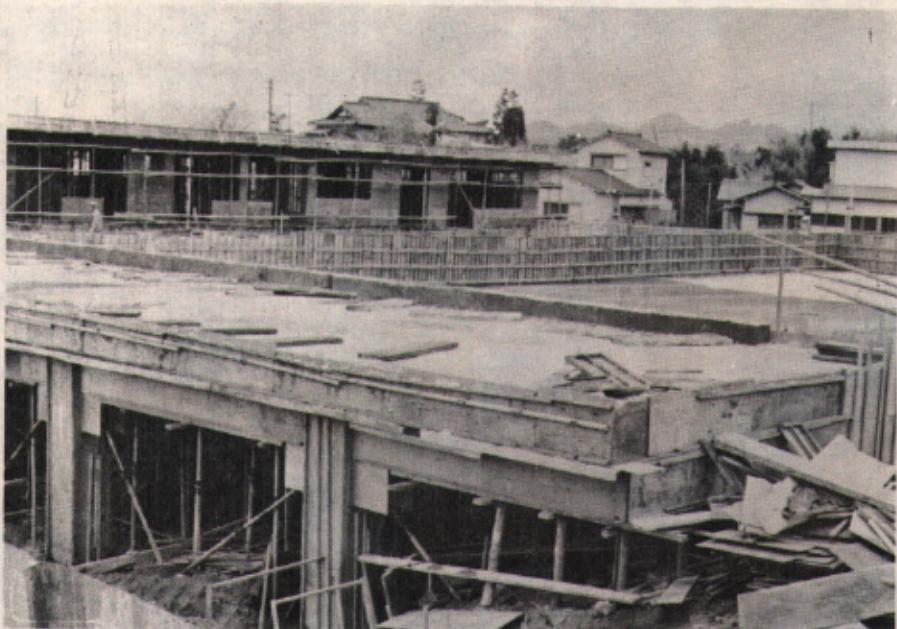


新装になった電子計算機室と FACOM 231  
電子計算機



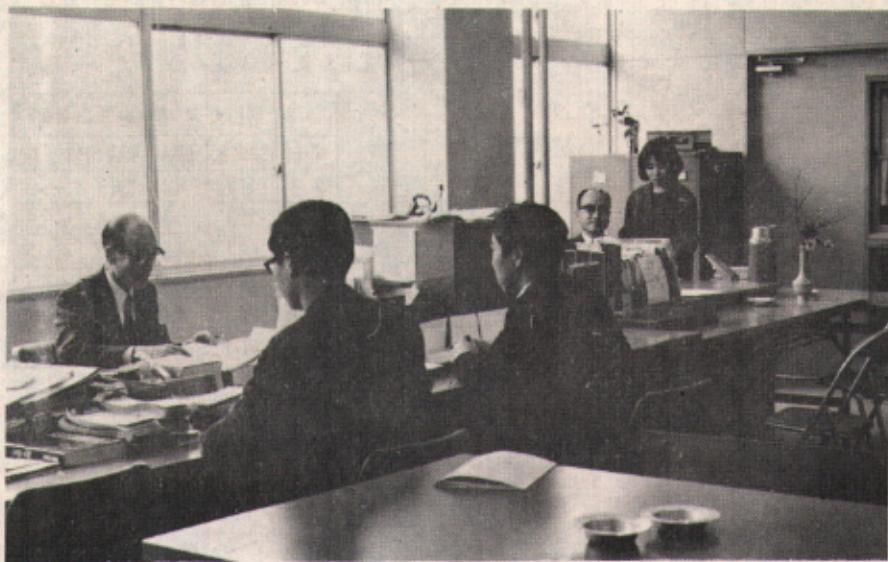
駐車場

（園木アドバイス）



新築中の 50m公認プール

## 就職状況



就職相談室

就職委員会事務室長

蒲池玄三郎

昨年度に引きつづき昭和43年度の就職関係も大へん好調で、求人、就職決定等のベースも前年に比べて2週間余り早く、夏休みあけの9月中旬には、就職希望者の約80%の人がそれぞの望む職場を見出したようになつた。

前年度まで寝食を忘れて就職のための御盡力頂いた。鈴木正利教授の急逝で、一時は特に大企業については前途暗たんたるものを感じたが他の先生方の御努力と学生諸君の熱意によって、別掲の表のように前年度を遥かに上廻る成果を得たことを喜んでいる。

この好成績をあげられた原因として考えられるものは、

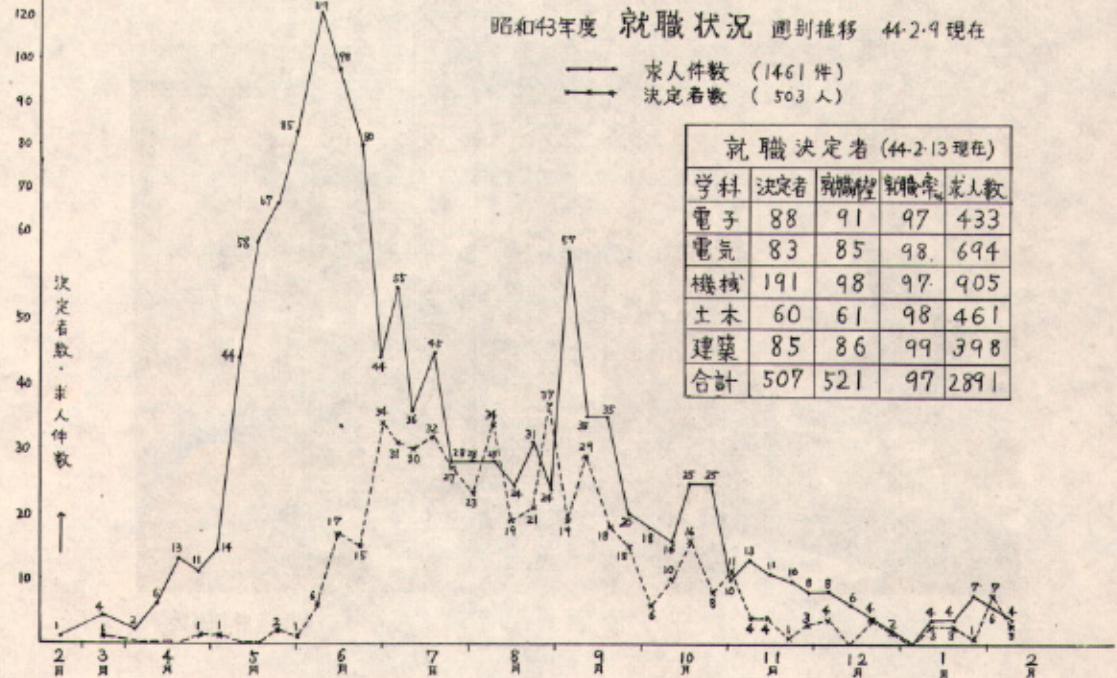
1. 創立以来職員学生一体となって、大学の真価發揮に努力してきたこと。
2. 創立以来の同窓生諸氏の職場における地道な精進が、本学の卒業生に対する信用を確定的なもとしたこと。

3. 鈴木教授の死の直前まで努力された求人開拓の努力の成果。  
4. 就職委員を中心として各教官の就職開拓、学生指導について払われた並々ならぬ努力。  
5. 本学の堅実な学風、健全な自治会活動等であろう。

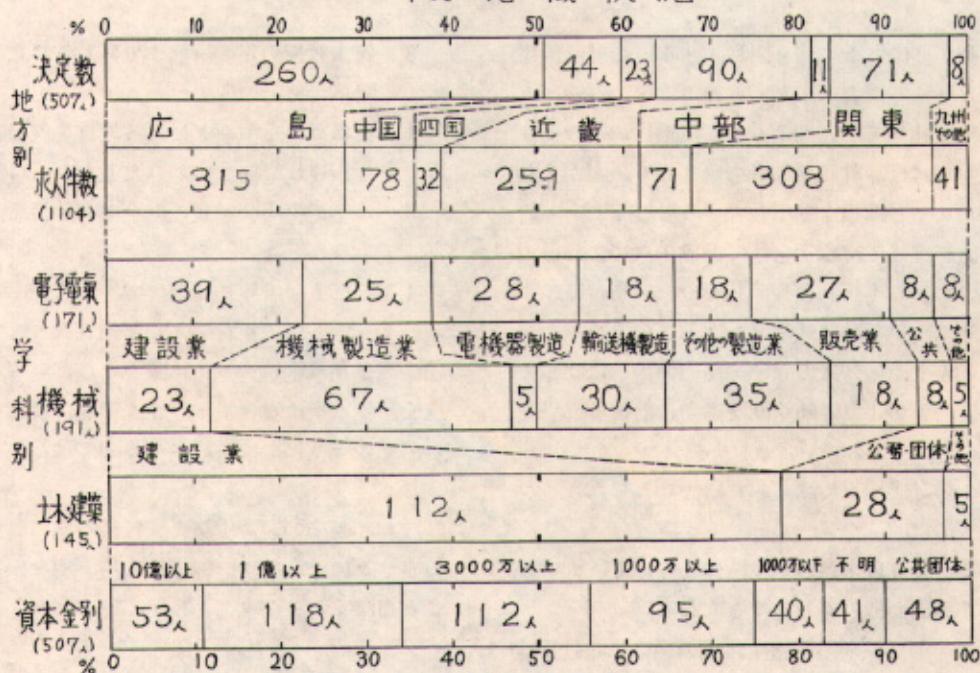
44年度も経済界の好況はつづくようであるし、70年安保の年を迎えて学生運動・大学紛争の激化する中にあって、毅然として堅実な学風を誇る本学にとっては、44年度の就職状況は、43年度以上に良好になるのではないだろうか。

なお、既卒の同窓生諸氏の転職希望に対するあっせんについては、御期待に沿い得なかつたことを深くお詫びする。

\*\*\*\*\*



昭和43年度 就職状況 (44.2.13現在)



# 我が職場

## 国鉄の現状と未来像 昭和41年度 電子工学科卒 中原重男

国鉄はいわゆる公共企業体であって、企業性と公共性の相反する両面を持っている、この両面は相反するものでありながら、これを両立させなければならぬところに企業としての国鉄のなづかしさがあった。しかし交通革命によつて交通分野での国鉄の独占時代は去り、国鉄も交通産業における1企業としての存在でしかなくなつた。

1企業として国鉄を見るとき、国鉄財政面では昭和44年度からは減価償却前の赤字を出すという到産寸前の状態である。国家及び国民の重要な財産である、国鉄を守りぬき、21世紀の国鉄へと脱皮さることは我々国鉄マンの使命である。しかしこの国鉄再建は、もはや、国鉄内部だけの努力では不可能に近いところまでできている。この再建のためには、政府・国民・国鉄の三者のそれぞれの努力又は犠牲の上にたたなければ再建は不可能な状態である。国鉄ではこれを名判官大岡越前守の有名な三方一両損の裁になぞらえている。

国鉄の、この危機を乗り越えるため運輸大臣の諮問機関として産業界・学界・言論界などの学識経験者を集め国鉄財政再建推進会議を結成し将来の国鉄のあり方を審議させ、その答申にもとづき、国鉄の変革を行おうとしている。それによると近代交通機関の発達により交通手段は大幅に変化を生じ、特に自動車産業の発達による交通革命は、旧体依然としたレールでの輸送を大幅に圧迫している。このような交通革命の中にあっては国鉄の交通分野で占める役割よりも自ずから変らなければならない。今後の国鉄の交通分野で占める役割は、都市間の旅客輸送・中長距離大量貨物輸送・大都市通勤通学輸送を受持つべきである。このため昭和44年度から昭和58年度までの10年間を国鉄財政再建期間として此の前半の内に減価償却前赤字の発生を防止しつつ極力財政基盤の強化を計り後半においては減価償却後の黒字に転ずることを目標とする。

先に申し上げた三者一両損の内政府の努力は、

此の再建期間中に必要な設備投資の資金3兆7000億円の資金援助を大幅に行なうと共に利子援助又は無利子の資金の貸付を行う、又市町村納付金の廃止又は削減、此の市町村納付金というのは戦後地方公共団体の財政援助のため国鉄路線のある市町村に納付金名義で財政援助を行なっているものである。国鉄そのものが財政的に破産寸前にありながら、なお市町村納付金を支払うのは国鉄財政を苦しくする以外なものでもない。

次に国民の努力については、まづ運賃の値上げがあげられる。高い高いと言はれる国鉄運賃も他の物価の上昇率及び世界の鉄道運賃と比較すると次表のようになっている。

### 世界の鉄道運賃の比較

	1人・キロ当り 旅客平均収入	1トン・キロ当り 貨物平均収入
日本	2.88円	3.89円
西ドイツ	5.22	7.74
フランス	5.25	6.18
イギリス	6.09	9.03
イタリア	4.11	6.00
スイス	5.57	11.80

### 物価と運賃の比較

(昭和11年対42年)

卸売物価	875倍	はがき代	466倍
東京小売物価	394	入浴料金	563
消費者米価	484	散髪料金	963
新聞代	594	国鉄旅客運賃	234
ガス料金	267	国鉄貨物運賃	310

さらに中間の小駅の50%を無人化又は廃止するということである。現状は旅客においては乗車人員1日500人以下の駅が全駅数の44%を占めその乗車人員の合計は僅かに全体の2%であり、貨物においては、発着トン数1日50トン未満の駅が全駅の44%を占めその発着トン数の合計は全体の3%である。

これらの廃止又は無人化の目標としてはおおむね旅客駅においては乗車人員1日800人以下の駅、貨物駅にあっては発着トン数1日80トン以下の駅を対象としている。

又從来からローカル線と考えられてきた線区は営業キロ約6000kmの線区であり、これらは輸送規模も極めて小さく、近年道路整備の進歩と自動車性能の向上により自動車輸送分野は著しく広がっておる、自動車と鉄道のコストを比較すると旅客でみると15000人/km・日 貨物でみると2000トン/km・日以下の線区

6000kmの線区はおおむねこれに該当する。従って社会事情等を勘案して出来れば廃線にして行く方針を立てている。

国鉄自身の努力としては各種の合理化・機械化により今後10年間に15万人の人員の削減を行う。又給与の引上げも、物価の上昇に似合ういどにとどめると共に、職務給的要素を大幅に導入し能率的勤務体制を確立する。又鉄道輸送をレール上だけにとどめず、長大な鉄道用地を利用してのパイプラインによる輸送を取り入れる。又新幹線方式による高速輸送、フレートライナーによる一貫輸送等、輸送方式の改変等色々の努力を行って行こうとしている。

このような大変革を行ないつつある職場で働くことを男の誇りと思うと共に益々努力をする覚悟である。諸兄の国鉄に対する御意見を御聞かせ願えれば幸甚である。

## 総会予告

広島工業大学同窓会第3回定期総会は下記の通り開催の予定であります。詳細は追って通知致しますので、ふるって御参加下さい。

記

日時 昭和44年8月中旬  
場所 広島市内の予定

XXXXXX  
X 同窓会便り X  
XXXXXX

## \* \* \* 議 事 錄 \* \* \*

(昭和43年4月1日～昭和44年3月31日)

昭和43年7月7日(日)

役員会

- 第3回定期総会開催について  
(8月17日平和記念館 決定)
- 総会通知及び会報原稿依頼企画
- 年次計画案
- 役員改選報告

昭和43年8月17日

- 第3回定期総会
- 決議事項は同窓会会報に記載の為略

昭和43年10月9日

- 役員会
- 同窓会会報編集企画

昭和43年10月13日

- 役員会
- 同窓会会報2号発刊
  - 発行予定日 10月30日決定
  - 同窓会援助支給規定

昭和44年1月12日

役員会

- 同窓会会誌発行準備案(改定案)
- 同窓会支部結成案

昭和44年1月14日

役員会

- 同窓会会誌発刊審議
- 発行予定日 昭和44年8月27日  
に決定

昭和44年2月10日

役員会

- 同窓会誌第3号編集
- 昭和43年度卒業記念灰皿に決定

## \$\$\$\$ 会 計 報 告 \$\$\$

### 昭和43年度会計中間報告

収入の部

前年度繰越金	2,416,799
入会金	586,000
終身会費	2,141,200
懇親会費	42,000
預金利息	7,821
計	5,193,820

支出の部

通信費	28,275
備品〃	168,70
会議〃	29,600
交通〃	2,840
会報発行〃	79,525
懇親会〃	113,404
慶弔〃	49,600
自治会クラブ遠征援助費	17,500
謝礼〃	8,000
消耗〃	1,700
残高〃	4,846,456
計	5,193,820

単位：円 昭和44年2月15日 現在

## 編集後記

暖冬異変をあとに陽春まじかな今日この頃、ますますお元気にて御活躍のこととお慶び申し上げます。

同窓会も今年は新しく土木工学科建築学科を加え5学科の卒業生を正会員として迎え1,400人近い会員を持ったに到りました。さらに来年度以後は経営工学科も卒業生を送り出しますので、大望久しい全6学科より新会員を迎えることになります。

母校、広島工業大学の昨今の躍進ぶりは目をみはるものがありますが、我が同窓会も会員の増加による基盤の確立に伴いその責任はこれまで以上のものがあります。

現在会の組織や活動あるいは運営面で考慮すべき点も多くみうけられますが、限りない発展を

期し、いつそう充実した内容ある同窓会とするために心からの御支援と暖かい愛情をそいで頂きたいと思います。

さて、同窓会誌第3号ができ上りましたのでお届け致します。表紙は新しく完成した大学本館で裏面は大学全景です。当初の頃を思いおこして下さい。この同窓会誌が会員相互、母校、在学生、あるいは同窓会との意志疎通のキャリアとして、同窓会発展の礎として、その一翼をになってくれることを期待しております。

最後に、本誌発刊にあたり御多忙中にもかかわらず快く原稿をお寄せ下さいました諸先生、会員諸兄、ならびに御無理をお願いした広告掲載の商社の方々に深くお礼申し上げます。

### 計 報

計 報	鈴木 正利 教授	43.5.18日
4年 機械工学科	小田 一摩	43.8.3日
1年 電子工学科	大広 雅則	43.10.27日
1年 機械工学科	西山 清美	43.12.16日

会誌発行者	広島市外五日町三宅 広島工業大学同窓会
表紙題字	廣島工業大学学長 鶴 裏
発行責任者	中原 重男
編集責任者	石川 黙
印刷所	(有)広島プリント社 代表取締役 藤井 典美 広島市千田町1丁目8番5号 TEL 代表 41-5791

未来をひらく



# 藤田組

取締役社長 藤田一暁

取締役支店長 井関 章

広島支店：広島市国泰寺町2丁目3番23号  
電話代表 (41)4131

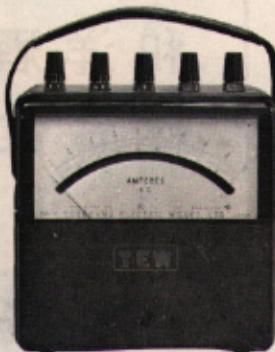
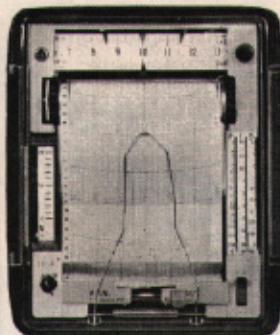
## 電気計器・測定計器・工業計器

### 営業内容

塩害予知装置 製造販売  
電気機具 計測器 販売  
計装設計 及び 計装工事  
運転調整 アフターサービス

### 代理業務

(株)横河電機製作所  
(株)戸上電機製作所  
横河ヒューレットパッカード(株)  
日本電源機器(株)



## 新川電機株式会社

本社 広島市三川町10番9号 電話 (47) 4211 代

工場 広島市光南3丁目2番24号 電話 (41) 7771 代

支店出張所 東京・大阪・高松・岡山・鳥根・福山・

広島・大竹・徳山・山口・福岡

# トアコン・ドラフター

測量機械

製図機械

セキレイ 製図紙 発売元  
試験機・気象機械・復写機・事務器



株会社

# ジツタ

広島支店

広島市富士見町16~2 TEL 41~5166  
本社 東京都中央区日本橋小伝馬町三~三  
大阪・岡山・徳山・松山・高知・高松・徳島・新居浜



みなさまの電化センター

# 第一産業

広島市紙屋町バスセンター前  
電話 (大代表) 47-9111

御進物用品  
和洋酒類  
綜合食品

# 石田酒店

五日市町三宅工大入口  
TEL (21) 0400  
2939

# 広島工業大学同窓会会則

## 第一章 総 則

- 第1条 本会は広島工業大学同窓会と称する  
第2条 本会は本部を広島工業大学内に置く、但し総会で必要と認めた場合に支部を置く事を得る  
第3条 本会は会員相互の交誼を厚くし、かつ母校の発展に貢献することを目的とする  
第4条 本会は前述の目的達成の為に下記の事業を行なう

1. 集 会
  1. 会員相互の連絡並びに共助に関すること
  1. 会報及び会員名簿の発刊
  1. 母校に対する精神的・物質的援助
  1. その他本会の目的達成に必要な事

## 第二章 会 員

- 第5条 本会は下記の者を以って組織する
1. 準会員 広島工業大学在学生、その他役員会で適當と認められた者
  1. 会 員 広島工業大学卒業生、但し広島工業短期大学卒業生を含む
  1. 客 員 母校職員及び旧職員

## 第三章 役 員

- 第6条 本会は下記の役員を置く
- |         |    |         |     |
|---------|----|---------|-----|
| 1. 名誉会長 | 1名 | 1. 副会長  | 2名  |
| 1. 会長   | 1名 | 1. 会計監査 | 2名  |
| 1. 会計   | 2名 | 1. 幹事   | 若干名 |
| 1. 幹事長  | 1名 | 1. 評議員  | 若干名 |

- 第7条 本会の役員は次の方法で決める
1. 名誉会長は広島工業大学現学長を推す
  1. 会長、副会長、幹事、会計、会計監査、評議員は総会で正会員の中から選ぶ
  1. 幹事長は幹事の中から互選する
  1. 幹事は総会の議決により母校出身の中から委嘱する

- 第8条 各役員はそれぞれ次の任務をもつ
1. 会長 本会を代表し会務を統べる
  1. 副会長 会長を助け会長に支障がある時は代理する
  1. 会計 会計事務に当る
  1. 会計監査 会計を監査する

1. 幹事長 会務を主掌する
1. 幹事 会務を処理する
1. 評議員 会務を評議する

第 9 条 役員の任期は一ヵ年とし再任をさまたげない、但し欠員は役員会にはかり補充しこれによつて就任した者の任期は前任者の残りの期間とする

#### 第四章 顧問

第 10 条 この会に顧問若干名をおく

1. 顧問は総会の議決により適任者を委嘱する
1. 顧問は会の諮詢に応ずる

#### 第五章 会議

第 11 条 会議を分けて定期総会・臨時総会及び役員会とする

第 12 条 総会は最高の議決機関で毎年 8 月に開く臨時総会は役員会が必要と認めた時会長が招集する

第 13 条 総会は次のことを決める

- |             |            |
|-------------|------------|
| 1. 会則の変更と改正 | 1. 決算及び予算  |
| 1. 役員の改選    | 1. その他重要な事 |

第 14 条 役員会は会長が必要と認めた時招集し、次のことを決める

- |               |                  |
|---------------|------------------|
| 1. 総会に附議する原案  | 1. この会の運営に関する諸事項 |
| 1. その他緊急事項の協議 |                  |

第 15 条 会議の議決は正会員の参加者の過半数をもって決定し、賛否同数の時は議長がこれを決定する

#### 第六章 会計

第 16 条 この会の経費は終身会費、寄付金及びその他の収入をあてる

1. 準会員は入会金として入学時に 500 円を納入しなければならない

第 17 条 準会員は正会員となる時終身会費として 5,000 円を納めなければならない

- 1.1 度納めた会費は返還しない、但し 4 年度前期に納入するものとする

第 18 条 この会の会計年度は 4 月 1 日に始まり、翌年 3 月 31 日に終る

#### 付 則

この会則は昭和 41 年 3 月 27 日から施行する

昭和 41 年 8 月 17 日一部改正

圓井の 試験機

コンクリート  
アスファルト  
ソイール

測量機械 試験機

製図用品 秤 事務用品

株式会社  
TSK 筒井測器

本店 広島市紙屋町二丁目一番十号

TEL (47) 4441~4443

出張所 福山・徳山・東京

江戸前

出前迅速

あづま寿司



広島・流川

電話 41. 2527

## 事務機と複写システムの綜合商社

電子リコピ・電子計算機・印刷機・事務用スチール家具

感光紙・製図用紙・其の他消耗品

第二原図作成・アパチャカード作成・トレース

青写真・マイクロフィルム撮影・引伸・図面文献の複製

電子計算センター 設計（産業機械設計製作）

## 理研産業株式会社

広島市大手町3丁目13-3

電話本社 41-3101

工業写真部 45-0216

受変電所並に自動制御配線工事

一般電灯動力設備工事設計施工

## 株式会社 高野電気商会

代表取締役 高野清二

広島市東白島町8番14号

TEL 21-3370(代)

P・T・O

新しい高速総合写真印刷

フォト タイプ オフセット

- 頁物（文集・テキスト・報告書・出版物・会議資料）
- 写真植字・製版（カタログ・会社案内・諸カード）
- カラー・白黒写真・事務用帳票類
- 静電子複写製版（諸複製もの縮少拡大）

有限  
会社

# 広島プリント社

代表取締役 藤井典美

広島市千田町1丁目3番5号 TEL 代表41-5791

## 新刊図書・雑誌・教科書

## 溝本積善館書店

本店 広島市千田町一丁目（広大正門前）

支店 広島市己斐町ひろでん会館四階

### エレクトロニクスの総合商社（各種計測器、電子部品）

日本電気株式会社・日電バリアン株式会社・安立電気株式会社

（株）高砂製作所・日本アピオトロニクス株式会社・日本電波株式会社

日本通信工業株式会社・東京電気化学工業株式会社・日本通信工業株式会社

東京コスマス電機株式会社・（株）磐城無線研究所・大倉電気株式会社



## 新光商事株式会社

広島 広島市国泰寺町1丁目3-19

TEL (45) 3208 (代)

本社 東京都目黒区1丁目1-5号

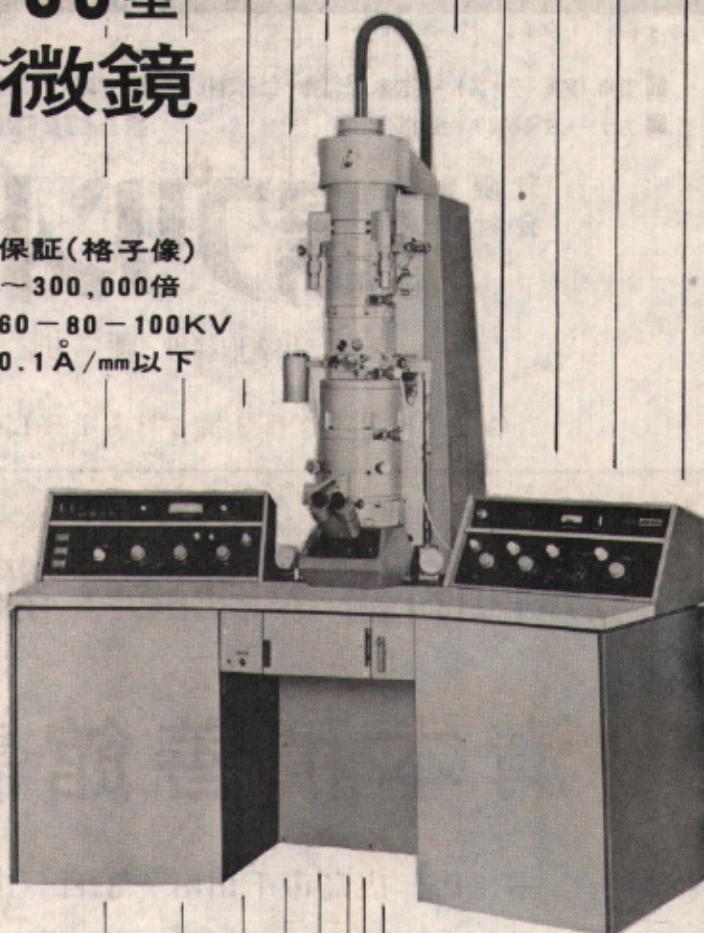
TEL (719) 2111 (代)

営業所 宇都宮・日野・松本・埼玉・神奈川・上田

# JEM-100型 電子顕微鏡

## 性 能

- 分解能 3.1 Å 保証(格子像)
- 直接倍率 300倍～300,000倍
- 加速電圧 20-60-80-100KV
- 試料汚染速度 0.1 Å/mm以下



## \* 魅力ある新機構の採用

- 芯出し不要のカートリッジ式 フィラメント
- ブラウン管式試料位置指示装置
- 直径 160mmの大きな蛍光スクリーン
- 見やすい倍率ダイヤル方式
- コンタミネーションの心配ない薄板絞り
- フィルム自動送り装置
- E E運動のシャッター
- 芯出し機構付電磁スチグマトル
- 自動化された排気系
- 立体構造の観察可能



## 日本電子株式会社

営業所 東京・大阪・名古屋・福岡・広島・札幌・仙台・高松

営業部 東京都千代田区丸ノ内312  
新東京ビル8階 ☎ 03(211)-8611

# 試験機・測定器・精密機器 の綜合商社

## 主要取扱いメーカー

株式会社島津製作所  
岩崎通信機株式会社  
昭和電機製造株式会社  
安藤電気株式会社  
山菱電機株式会社  
メトロニクス株式会社

新興通信工業株式会社  
東京プラント工業株式会社  
国際機械振動研究所  
株式会社東京機械研究所  
株式会社渡辺測器製作所  
三栄測器株式会社

## 株式会社 丸島サイエンス

本 社 広島市金屋町2番20号  
電話(0822)61-3171

東京支店 東京都渋谷区代々木二丁目20番5号  
電話(03)370-7471

福山出張所 福山市御門町一丁目3番3号  
電話(0849)23-3036

呉出張所 呉市草里町51  
電話(0823)22 1444

山 口 店 山口市大字鰐石10番地  
電話(08392)2-1816

めじるしは 《花》  
お近くの窓口がお役に立ちます



花いっぱいの明るいくらし……

広島相互銀行

